NTT-ME

取扱説明書

MN7500

無線LAN対応ブロードバンドルータ

特　長

1. ブロードバンド（ADSL/CATV）対応

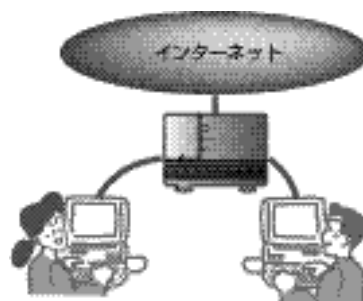
かんたん設定！かんたん接続！ブロードバンドで高速インターネット

2. 複数のパソコンから同時に簡単ブロードバンド・インターネット※1

■ 1つのIPアドレスで複数のパソコンから同時アクセス

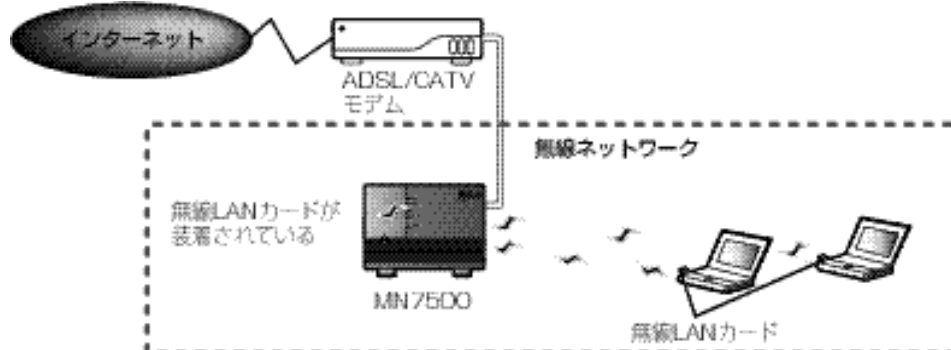
1つのIPアドレスを共用し、複数のパソコンからインターネットを利用できます。

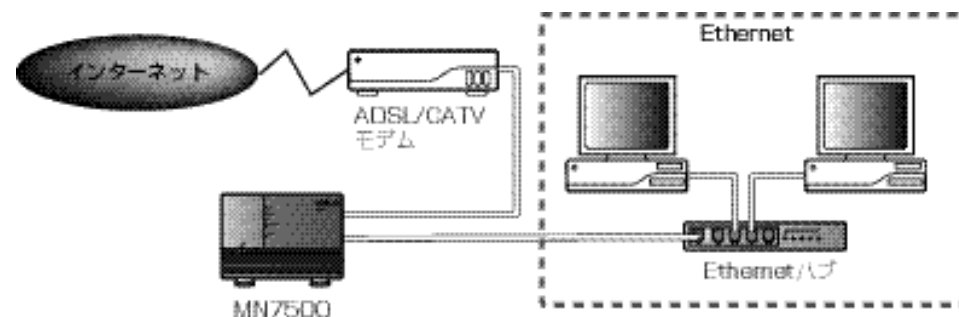
■ 複数のIPアドレスサービス対応

フレッツ・ADSLなどのPPPoE接続サービスで、複数のグローバルIPアドレスを提供するLAN接続型サービスに対応しています。複数のサーバにそれぞれ固定のIPアドレスを割り当て、インターネット上に公開することができます。

3. 2種類のネットワークに対応しています

ブリッジ機能で2種類のネットワーク間でデータのやりとりができます。

■ 11 Mbps高速無線LAN対応※2

11Mbps の無線ネットワーク（IEEE802.11b）に準拠。優れた耐妨害性をもつ通信方式(DS-SS)を採用のMN SS-LAN CARD11 HQ（別売品）で無線ネットワークが構築できます。

■ 10 MbpsのEthernet

お手持ちのEthernetカードで、家庭内LANが構築できます。

※1 複数台のパソコンによるインターネットの接続については、プロバイダとのご契約内容を必ずご確認ください。複数台のパソコンを接続するには、ハブを別途ご用意ください。

※2 無線部の通信速度は11Mbpsです。データ転送の速度とは異なります。データ転送速度はご使用の環境に依存します。

4. かんたん設定

■ WWWブラウザを利用したかんたん設定

WWWブラウザを利用した設定画面はシンプルで、誰にでもかんたんに設定ができます。

■ 設定もらくらく「フレッツ・ADSL対応」

PPPoEに対応しているので、パソコンにフレッツ・ADSL（PPPoE）用接続ツールをインストールする必要はありません。

■ IPアドレスを自動取得する「DHCPクライアント機能」

DHCP方式のADSL/CATVプロバイダに対応。
DHCPクライアント機能を使ってプロバイダからIPアドレスを自動取得できます。

【商標／登録商標および略称について】

- Netscape® および Netscape Navigator® は、Netscape Communications Corporation社（ネットスケープ社）の登録商標です。
- Ethernet は、富士ゼロックス社の登録商標です。
- Apple®、Macintosh®、Mac® OS、MacTCP®および漢字Talkは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NT および NetMeetingは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows® 95の正式名称は、Microsoft® Windows® 95 Operating Systemです。（以下Windows 95）
- Windows® 98の正式名称は、Microsoft® Windows® 98 Operating Systemです。（以下Windows 98）
- Windows® Meの正式名称は、Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating Systemです。（以下Windows Me）
- Windows® 2000の正式名称は、Microsoft® Windows® 2000 Professional またはMicrosoft® Windows® 2000 Serverです。（以下Windows 2000）
- Windows NT、Windows NT 4.0の正式名称は、Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0およびMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0です。（以下Windows NT 4.0）
- Microsoft Corporation のガイドラインにしたがって画面写真を使用しています。
- その他、社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- 本書ではMN7500のLANジャックに接続しているネットワークやMN7500に接続している無線LANをホームネットワークと呼んでいます。

もくじ

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

ACアダプターのコードやプラグを破損するようなことはしないでください。

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしないでください。

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

ACアダプターのプラグのほこりなどは定期的にとってください。

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

ACアダプターをコンセントから抜き、乾いた布でふいてください。

ぬれた手で ACアダプターの抜き差しはしないでください。

感電の原因になります。

ACアダプターのプラグは根元まで確実に差し込んでください。

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100V 以外での使用はしないでください。

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

専用の ACアダプター（極性統一形プラグ）以外は使わないでください。

専用以外のACアダプターを使用すると、電圧や＋－の極性が異なっていることがあるため、発煙・火災のおそれがあります。

ACアダプターを抜き差しするときは本体（金属でない部分）を持ってください。

感電の原因になります。

心臓ペースメーカーの装着部位から22 cm 以上離してください。

電波によりペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くには設置しないでください。

本製品からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

⚠ 警告

医用電気機器の近くでの設置や使用をしないでください。 ［手術室、集中治療室、CCU※等には持ち込まないでください。］ 本製品からの電波が、医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。 ※CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。	**本製品や、ACアダプターをぬらさないでください。** 近くに花びん、コップなどを置かないでください。 発火・感電の原因になります。 ぬらした場合は、ACアダプターを抜いて技術サポートセンターへご連絡ください。
本製品やACアダプターから煙・異臭・異音が出たり、落下などにより破損したときは使用を中止してください。 そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。 ACアダプターを抜いて技術サポートセンターへご連絡ください。	**本製品内部や、無線カード用スロットにクリップやピンなどの金属物や異物を入れないでください。** 火災・感電の原因になります。
本製品を分解したり、修理・改造をしないでください。 故障したり、火災・感電の原因になります。	**落下させたり、強い衝撃を加えないでください。** 故障やけがの原因になることがあります。

雷が鳴ったら本製品や ACアダプターに触れないでください。

感電の原因になります。
落雷などのおそれがある時は、必ずACアダプタをコンセントから抜いてご使用を控えてください。
場合によっては感電や故障のおそれがあります。

⚠注意

水平でない場所や振動の激しい場所には設置しないでください。 落下により、けがの原因になることがあります。	**火気を近づけないでください。** 火災の原因になることがあります。
本製品を壁にかけて使用するときは、堅固・確実に取り付けてください。 落下により、けがの原因になることがあります。	**水、湿気、ほこり、油煙等の多い場所（調理台や加湿器のそばなど）に設置しないでください。** 故障や感電・ショートの原因になることがあります。
ケーブルは防水仕様になっていないので、水をかけたりしないでください。 故障や感電の原因になることがあります。	**ケーブルを曲げたり落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。** 故障・変形・破損や感電の原因になることがあります。
通気孔をふさぐような設置はしないでください。 熱がこもり、火災や故障の原因になります。	**本製品同士、またはモデムなどその他の通信機器を重ねて設置しないでください。** 筐体が変形したり、火災や故障の原因になります。

ケーブルを引っぱったり、コネクタ部に無理な力を加えないでください。

損傷や感電の原因になることがあります。

正しくお使いいただくために

使用・設置場所について

■ **長時間直射日光の当たるところや、冷・暖房器の近くなどに設置しないでください**
（変形・変色または故障・誤動作の原因になります。）

■ **本製品は、涼しくて湿気が少なく、なるべく温度が一定の場所に設置してください**
推奨温度：10℃～30℃
推奨湿度：45%～85%

ご使用について

■ **ケーブルや無線カード用スロット内の端子に触れないでください**
（故障の原因になります。）

■ **本製品に磁石など磁気をもっているものを近付けないでください**
（磁気の影響を受けて、動作が不安定になります。）

■ **隣接して使用しているラジオやテレビから2m以上離してください**
また、同一コンセントでご使用の場合は、コンセントを別にしてください
（ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。）

日頃のお手入れについて

■ **ベンジンやシンナー、研磨剤などを使って筐体を拭かないでください**
柔らかい乾いた布をお使いください
（筐体が変形・変色することがあります。）

■ **長時間使用しないときや、お手入れするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください**
（漏電・感電の原因になることがあります。）

- 本製品は日本国内用です。国外での使用に対するサービスは致しかねます。
- 本製品の故障・誤作動・不具合・通信不良、あるいは停電、落雷などの外的要因によって、通信などの機会を逃したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 通信内容の漏洩による経済的・精神的損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品は、プロバイダから付与されるインターネットアクセスアカウント1つで、複数端末からのインターネットアクセスを実現する機能を搭載しています。ただし、プロバイダによってはインターネットにアクセス可能な端末台数を制限、あるいは台数によって別途追加料金を設定している場合があります。本製品をインターネットアクセスに用いる際は、ご契約プロバイダとの約款の範囲内でのご利用をお願いいたします。
- 本書の記載内容の一部、または全部を無断で転載することを禁じます。
- 本書の記載内容およびハードウェア、ソフトウェア、外観に関しては、将来予告なく変更されることがあります。
- この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

付属品

ご使用いただく前に、次の付属品・添付品がそろっているか確認してください。
万一、不足の品がありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または技術サポートセンターまでご連絡ください。

付 属 品		
□ ACアダプター ………………1個 (☞ 21ページ)	□ 10Base-T（ストレート）ケーブル1m ……………………………………1本 (☞17、18、19ページ)	□ 壁掛け用ネジ…………………2本 (☞ 101ページ)

添 付 品
□ 取扱説明書（本書）……………………………1冊
□ 保証書 ……………………………………………1式

【推奨パソコン環境】

MN7500の設置には、下記のパソコンやソフトウェアを準備してください。

	Windows パソコン	Macintosh
インタフェース	Ethernetインタフェース Ethernetケーブル	Ethernetインタフェース Ethernetケーブル
メモリー	16MB以上	16MB以上
プロトコル	TCP/IPプロトコルがインストールされていること	Open Transport1.12以降あるいはMac TCP® 2.0.6以降がインストールされていること
WWWブラウザ	Internet Explorer 4.0以降、または、Netscape Navigator 4.0以降	Internet Explorer 4.0以降、または、Netscape Navigator 4.0以降

各部の名称

正　面

矢印

矢印部を押しながら
上にすべらせて
カバーを取り外して
ください

カバー
（☞ 80ページ）

CLEAR SETTINGボタン
（☞ 80ページ）

RESETボタン
（☞ 80ページ）

無線LANカードスロット

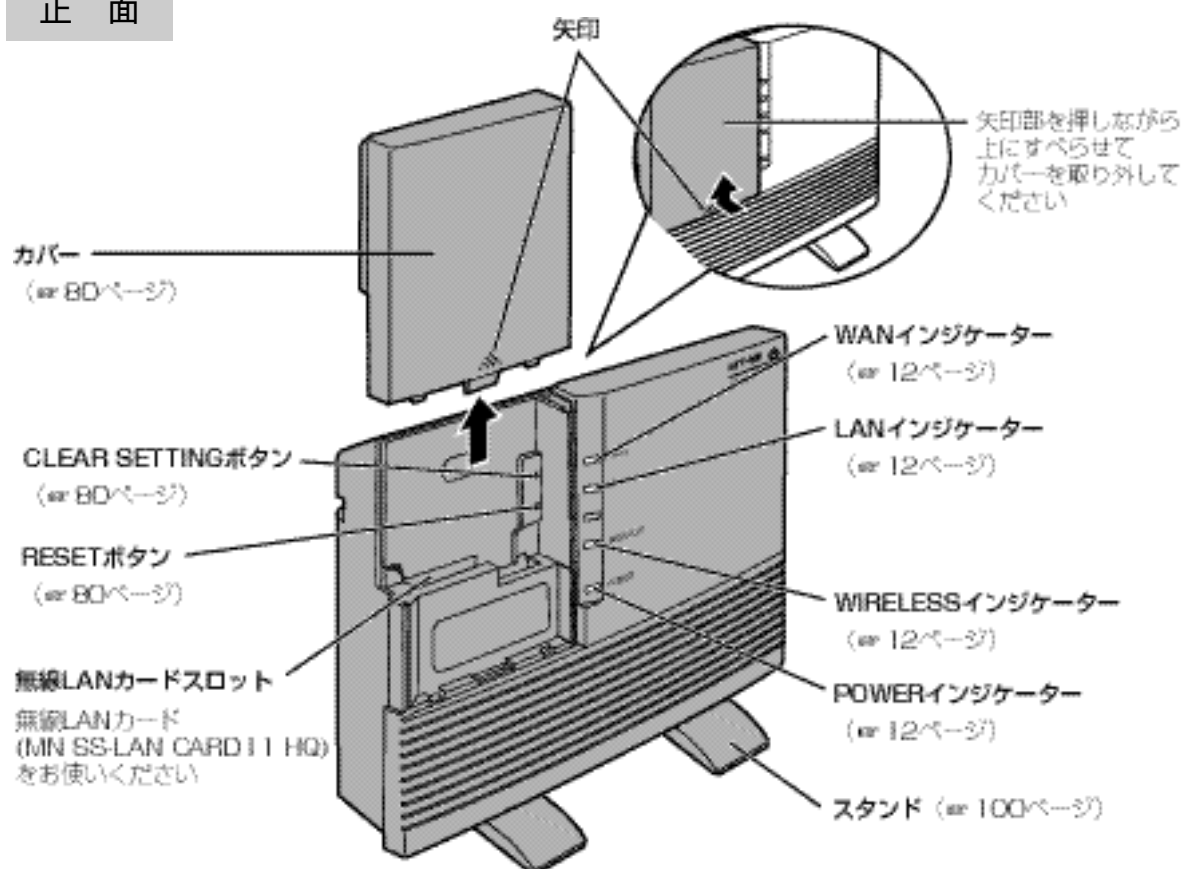
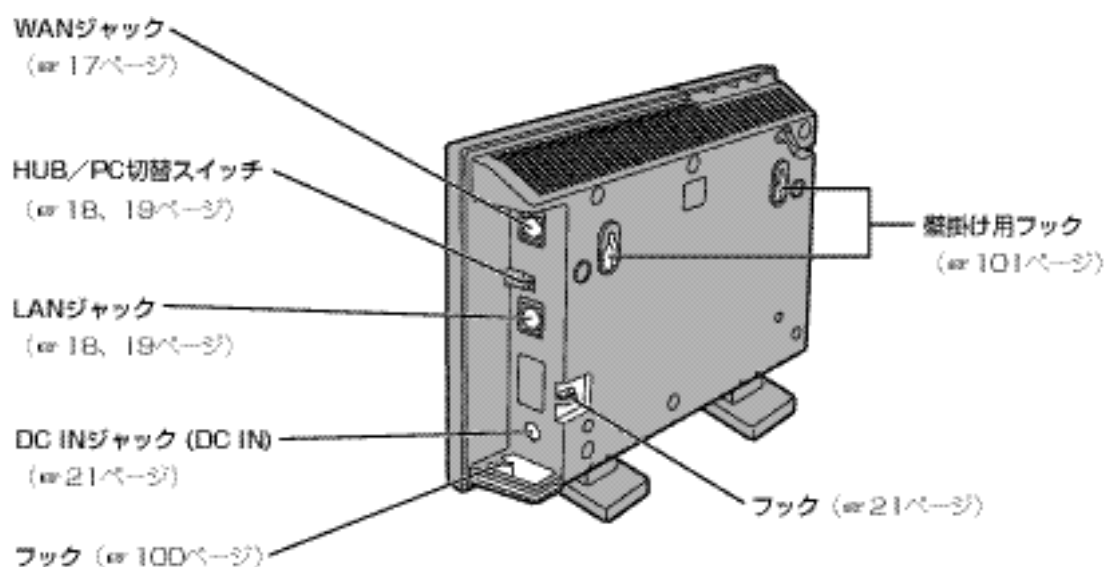
無線LANカード
(MN SS-LAN CARD11 HQ)
をお使いください

WANインジケーター
（☞ 12ページ）

LANインジケーター
（☞ 12ページ）

WIRELESSインジケーター
（☞ 12ページ）

POWERインジケーター
（☞ 12ページ）

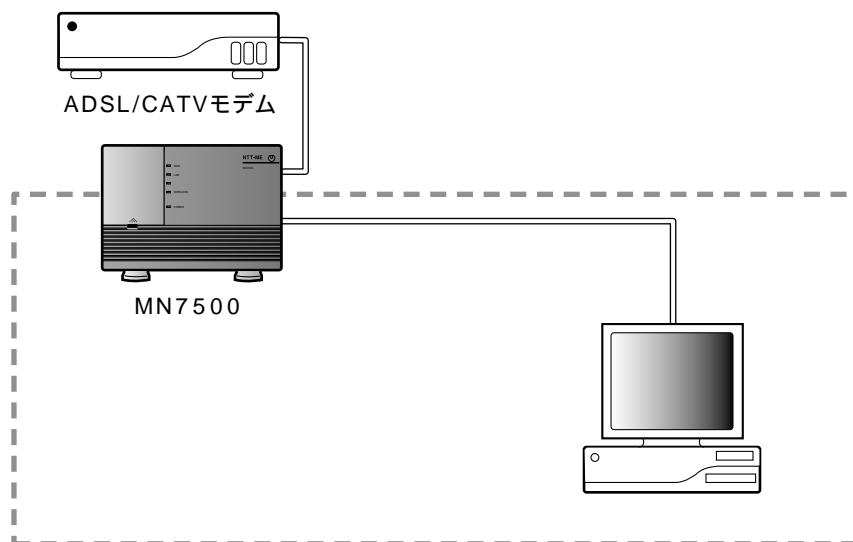
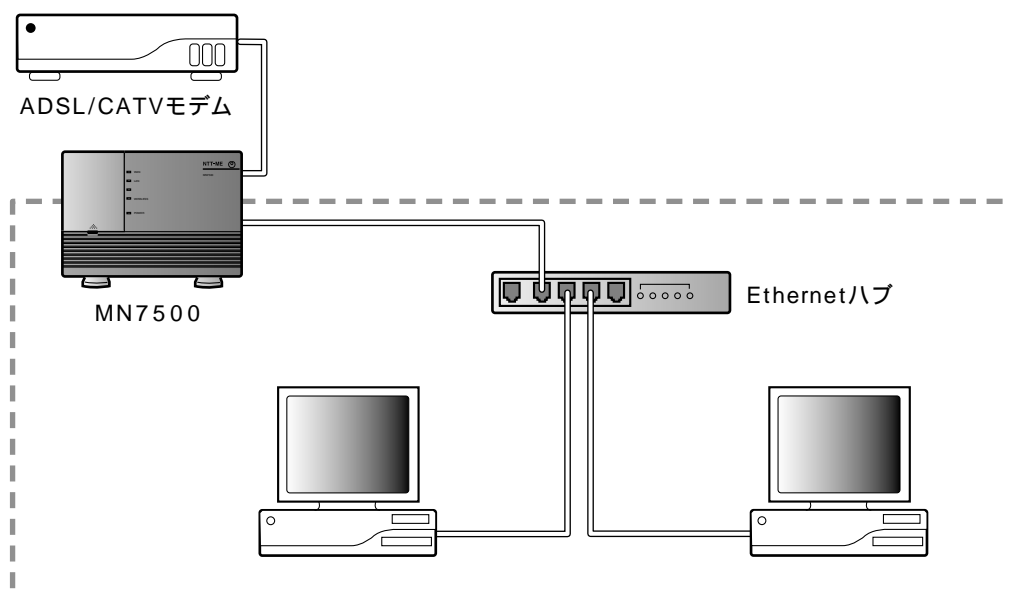
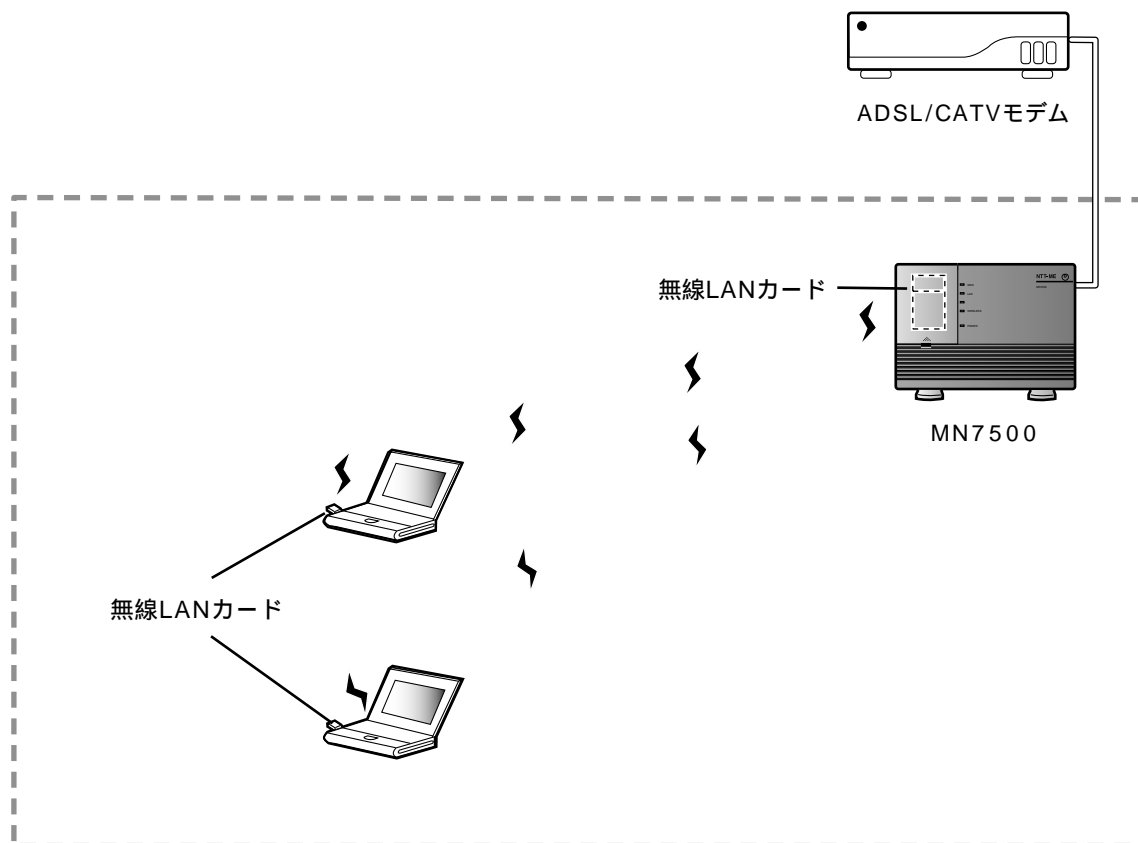
スタンド（☞ 100ページ）

背　面

インジケーター

LED	点灯色	表示内容
WAN	緑	MN7500の電源が入っており、ADSL/CATVモデムに接続されています。MN7500とADSL/CATVモデム間で通信しています。
	緑（点滅）	MN7500は、インターネットに接続しています。
LAN	緑	MN7500の電源が入っており、ハブあるいはパソコンに接続されています。
	緑（点滅）	MN7500は、Ethernet内でデータ通信しています。
WIRELESS	緑	無線LANカードMN SS-LAN CARD11 HQ（別売品）が装着されています。
POWER	緑	MN7500の電源が入っています。
	緑（早く点滅）	MN7500が、正しく動作していません。先ず、MN7500のWeb設定画面にアクセスし、ファームウェア設定画面の表示にしたがってください。
	緑（ゆっくり点滅）	MN7500のソフトウェアに障害があります。 MN7500のWeb設定画面にアクセスし、ファームウェア設定画面の表示にしたがってください。
	赤	MN7500のハードウェアに障害があります。 MN7500のRESETボタンを押してください。 (☞ 80ページ)
	赤（点滅）	MN7500のハードウェアに障害があります。 MN7500のRESETボタンを押してください。 (☞ 80ページ)

1 接続のしかた

1-1 接続図

■ Ethernet を使った接続

パソコンを直接接続する（☞ 17、18、21 ページ）

Ethernet ハブを接続する（☞ 17、19、21 ページ）

■ 無線 LAN カードを使った接続（☞ 17、20、21 ページ）

1-2 接続をするまえに

MN7500を設置するまえに、以下のものが揃っていることをご確認ください。

● WWWブラウザソフトウェア※、ネットワークカード（Ethernet、あるいは、無線LANカード）、TCP/IPをインストールしているWindowsパソコンまたはMacintosh
● ADSLモデム、あるいはCATVモデム※※
● インターネットにアクセスするためのアカウント情報（プロバイダから通知されています）

※　推奨のWWWブラウザについては、10ページを参照してください。
※※ ADSLモデムやCATV モデムによっては、最初に接続されていたネットワーク機器のMACアドレスを記憶し、それ以外のネットワーク機器と接続できなくなる機種があります。この場合は、一度ADSLモデムやCATV モデムの電源を切り、10分ほどしてから再度電源を入れてください。
　● ADSLモデムやCATVモデムによっては、数時間から1日程度電源を切る必要がある場合があります。
　● プロバイダによっては、ADSLモデムやCATV モデムの電源を切ることを禁止している場合があります。問題がないか確認の上、作業をおこなってください。

■ インターネット接続に関する情報を集める

本製品をインターネットに接続するための接続方法は、プロバイダや回線接続業者によって異なります。接続方法としては、次の4種類に分けられます。

● ADSL（PPPoA接続）とCATV インターネット接続（DHCP接続）
● IPアドレス固定のインターネット接続（Static接続）
● PPPoE（Point to Point Protocol over Ethernet）接続（端末型）
● PPPoE接続（LAN型）

インターネット接続のためのパソコンの設定情報（アカウント情報）を参照の上、適切な接続方法をご確認ください。

1. ADSL（PPPoA接続）とCATVインターネット接続（DHCP接続）

プロバイダのサーバからIPアドレスを自動で割り当ててもらい接続します。デバイス名※、ゲートウェイアドレス、DNSサーバアドレス、ドメイン名の入力が必要になる場合があります。必要に応じてメモしてください。

✎ デバイス名
✎ ゲートウェイアドレス　.　.　.
✎ DNSサーバ1アドレス　.　.　.
✎ DNSサーバ2アドレス　.　.　.
✎ ドメイン名

※　「デバイス名」とは、プロバイダによってはパソコンのコンピュータ名入力欄に入力するIDと指示されている場合があります。

2. IPアドレス固定のインターネット接続（Static接続）

プロバイダのアカウント情報からIPアドレスを固定に設定するように指示されている場合は、IPアドレス、ネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNSサーバアドレスの入力が必要になります。また、ドメイン名の入力も必要になる場合があります。必要事項をメモしてください。

✎ IPアドレス　.　.　.
✎ ネットマスク　.　.　.
✎ ゲートウェイアドレス　.　.　.
✎ DNSサーバ1アドレス　.　.　.
✎ DNSサーバ2アドレス　.　.　.
✎ ドメイン名

3. PPPoE 接続（端末型）

通常の PPPoE 接続で、１台のモデムやパソコン※を直接インターネットに接続します。
ユーザ名とパスワードの入力が必要になります。また、サービス名、アクセスコンセントレータ名、DNS サーバアドレス、ドメイン名の入力も必要になる場合があります。必要事項をメモしてください。

✎ ユーザ名	✎ パスワード
✎ サービス名	✎ アクセスコンセントレータ名
✎ DNS サーバ 1 アドレス　.　.　.	✎ DNS サーバ 2 アドレス　.　.　.
✎ ドメイン名	

※本製品のアドレス変換機能を使って複数台のパソコンからインターネットにアクセスすることができます。

4. PPPoE 接続（LAN 型）

PPPoE 接続で、複数個のグローバル IP アドレスをプロバイダから提供される場合の接続になります。入力事項は PPPoE 接続（端末型）と同じですが、プロバイダから割り当てられたグローバル IP アドレスの 1 つをルータ本体の IP アドレスの項目に設定する必要があります。

✎ ユーザ名	✎ パスワード
✎ サービス名	✎ アクセスコンセントレータ名
✎ DNS サーバ 1 アドレス　.　.　.	✎ DNS サーバ 2 アドレス　.　.　.
✎ ドメイン名	

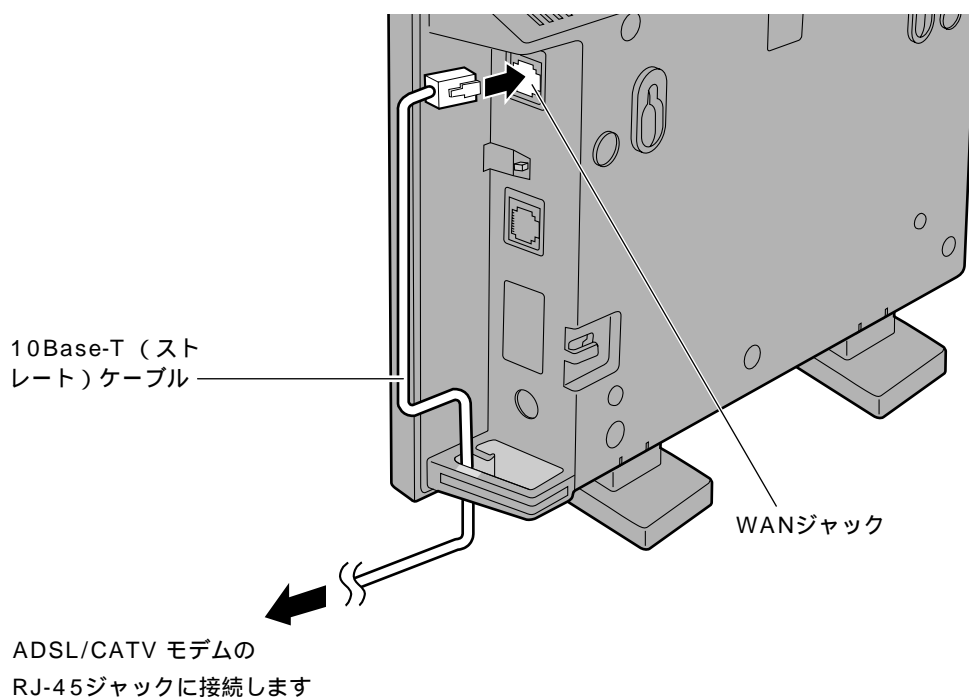
ルータ本体の IP アドレス

✎ IP アドレス　.　.　.	✎ ネットマスク　.　.　.

1-3 ADSL/CATV モデムに接続する

❶ ADSL/CATV モデムの電源を切る

❷ 10Base-T（ストレート）ケーブル※（付属品）を ADSL/CATV モデムの RJ-45 ジャックに接続する

❸ 10Base-T（ストレート）ケーブル※のもう一方を MN7500 の WAN ジャックに接続する

※ADSL モデムや CATV モデムによっては極性切替スイッチが付いていたり、クロスケーブルを必要とする機種があります。ADSL モデムや CATV モデムに付属の取扱説明書を参照の上、接続してください。

1-4 ホームネットワークに接続する

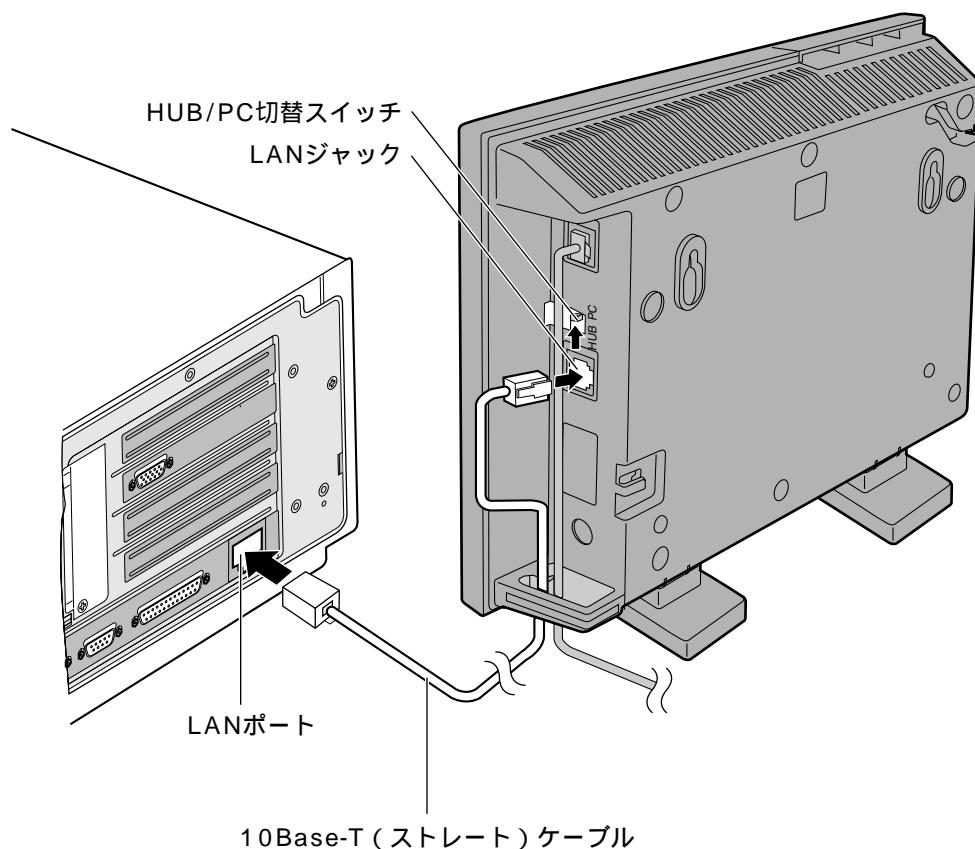
■ パソコンを直接 MN7500 に接続する

接続する前に、Ethernet カードをパソコンに装着してください。

❶ パソコンの電源を切る

❷ MN7500 の HUB/PC 切替スイッチを PC 側にセットする

❸ 10Base-T（ストレート）ケーブルを MN7500 の LAN ジャックに差し込む

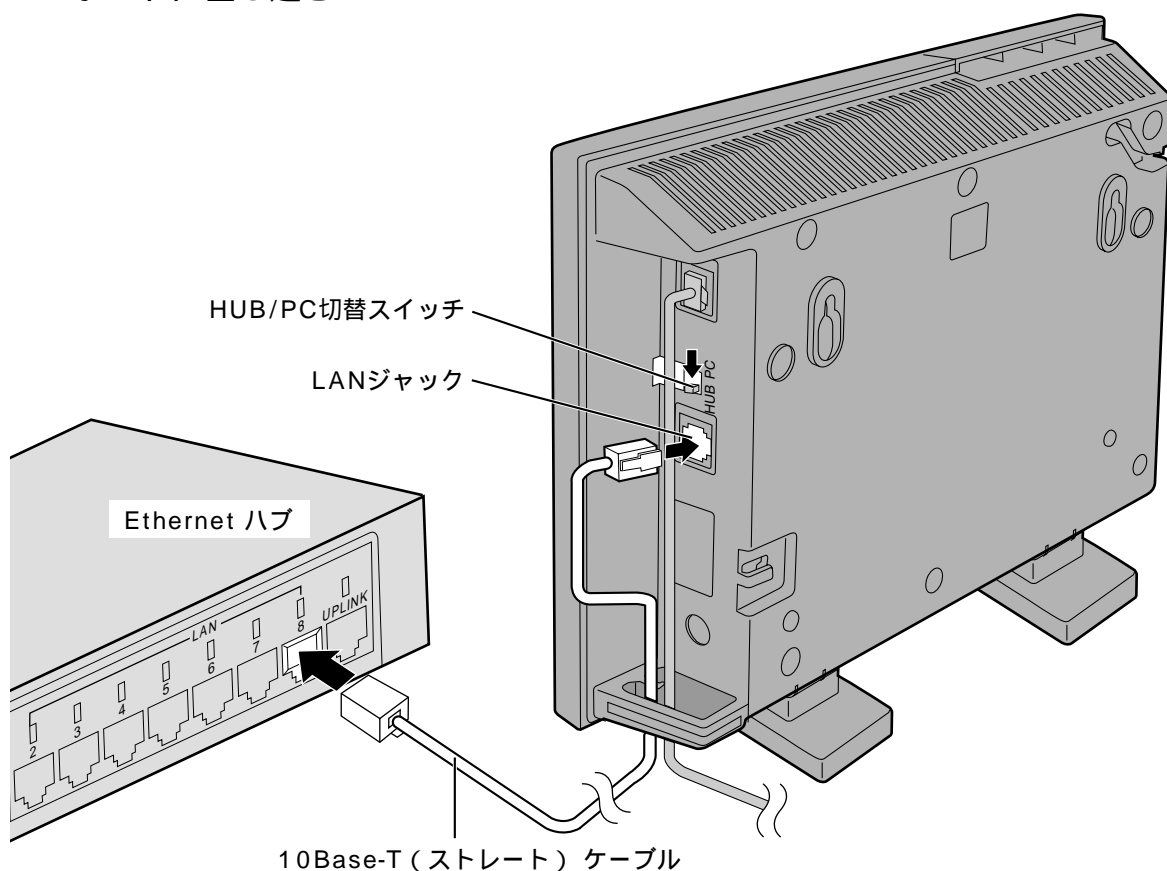
❹ 10Base-T（ストレート）ケーブルのもう一方をパソコンの LAN ポートに差し込む

■ **Ethernet ハブを MN7500 に接続する**

接続する前に、Ethernet カードをパソコンに装着してください。

❶ パソコンと Ethernet ハブに接続されている他の機器の電源を切る

❷ MN7500 の HUB/PC 切替スイッチを HUB 側にセットする

❸ 10Base-T（ストレート）ケーブルを MN7500 の LAN ジャックに差し込む

❹ 10Base-T（ストレート）ケーブルのもう一方を Ethernet ハブの LAN ポートに差し込む

10Base-T（ストレート）ケーブルは Ethernet ハブの LAN ポートに接続してください。UPLINK ポートに接続する時は、102 ページの「MN7500 を Ethernet に接続しているが、LAN インジケーターが消えている」を参照してください。

■ 無線 LAN カード（別売品）を使ってパソコンを接続する

無線 LAN カード（別売品： MN SS-LAN CARD11 HQ）を MN7500 とコンピューターに装着する必要があります。

- MN7500 に無線 LAN カードを装着する前に、MN7500 の電源が切れていることを確認してください。
- 無線 LAN カードのパソコンへの装着とドライバーソフトウェアのインストールは、無線 LAN カードの取扱説明書をお読みください。

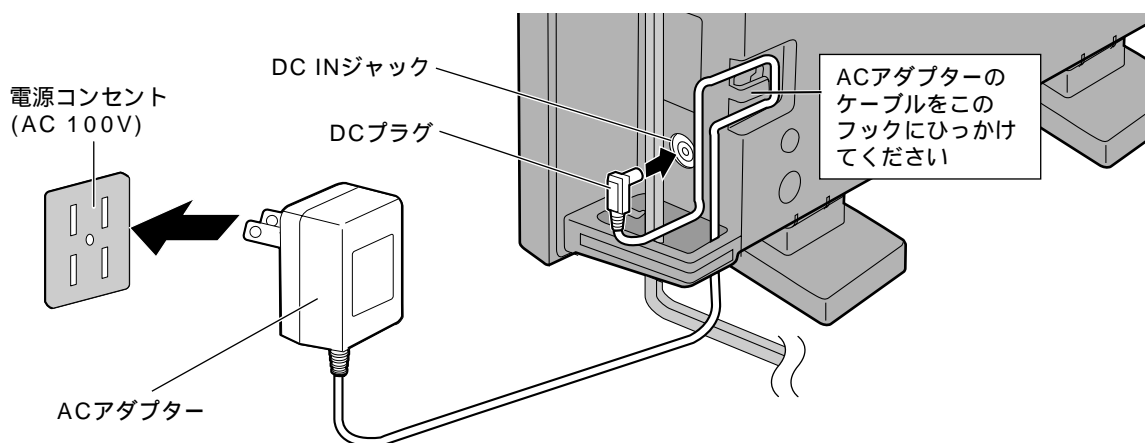
MN SS-LAN CARD11 HQ 以外の PC カードは、挿入しないでください。故障や感電・ショートの原因になることがあります。

2 電源を入れる

すべての機器を接続したら、次の手順にしたがって、電源を入れてください。
モデムや Ethernet ハブも含めて、すべての機器の電源が入っていないことをご確認ください。

❶ ADSL/CATV モデム の電源を入れる

- 電源を入れたら、ADSL/CATV モデム が立ち上がるまで 2、3 分の間、お待ちください。

❷ AC アダプターの DC プラグを MN7500 の DC IN ジャックに差し込み、AC アダプターをコンセントに差し込む

専用の AC アダプター（極性統一形プラグ）以外は使わない

専用以外の AC アダプターを使用すると、電圧や＋－の極性が異なっていることがあるため、発煙・火災のおそれがあります。

❸ Ethernet ハブが LAN ジャックに接続されている場合は、Ethernet ハブの電源を入れる

❹ ホームネットワークに接続されているパソコンの電源を入れる

MN7500 の POWER インジケーターと WAN インジケーターが緑色に点灯していることと、接続しているネットワークに対応したインジケーター（LAN、WIRELESS）が緑色に点灯していることを確認してください。（☞ 11 ページ、102 ページ）

3 パソコンをセットアップする

機器の接続（☞ 17～21 ページ）が終わりましたら、MN7500 の DHCP サーバ機能を使用するために、それぞれのパソコンを設定する必要があります。次の手順にしたがって、パソコンを設定してください。（☞ 22、25、28、30、32 ページ）

3-1 Windows 95/98/Me の場合

次の手順にしたがって、各パソコン毎に IP アドレスを設定してください。

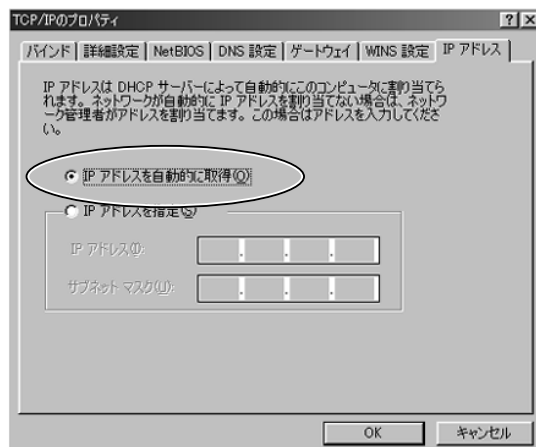
1 **[スタート]** ボタンをクリックし、**設定**を選び、**コントロールパネル**をクリックする

2 **「ネットワーク」**アイコンをダブルクリックする

Windows Me を使っていて**「ネットワーク」**アイコンが見つからない場合は、**「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」**をクリックしてください。

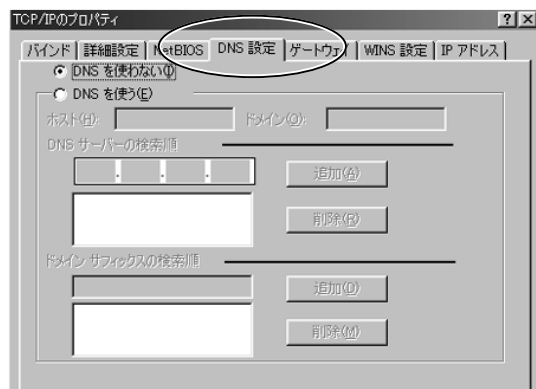
3 MN7500 に接続しているネットワークカードに対応した TCP/IP を選び、**ネットワーク**ダイアログボックスの **プロパティ** をクリックする

4 **TCP/IP プロパティ**ダイアログボックス内の **IP アドレス**タブをクリックする

5 **「IP アドレスを自動的に取得」**を選ぶ

6 **ゲートウェイ**タブをクリックする

7 **インストールされているゲートウェイ**の入力欄に何も入力されていないことを確認する
入力されていた場合は、入力されている IP アドレスを選択し、［削除］をクリックする

削除

8 **DNS 設定**タブをクリックする

9 **「DNS を使わない」**を選ぶ

10 OK をクリックする

ネットワークダイアログボックスを表示します。

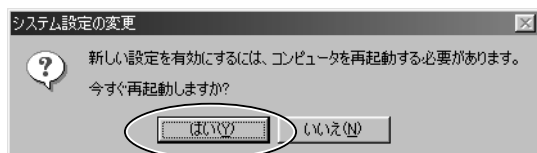
11 **識別情報**タブをクリックし、**「コンピュータ名」**および**「ワークグループ」**入力欄に名前を入力する

「コンピュータ名」はネットワーク上でパソコンを識別するためにつけます。
任意の名前をつけてかまいませんが、他のパソコンと同じ名前はつけないでください。
「ワークグループ」は、ネットワーク上でどのパソコンをどのグループに所属させるかを決めるための名前です。ネットワークで通信したいパソコンには、**同じ「ワークグループ」**を入力してください。

12 OK をクリックする

システム設定の変更ダイアログボックスを表示します。

13 はい をクリックして、パソコンを再起動する

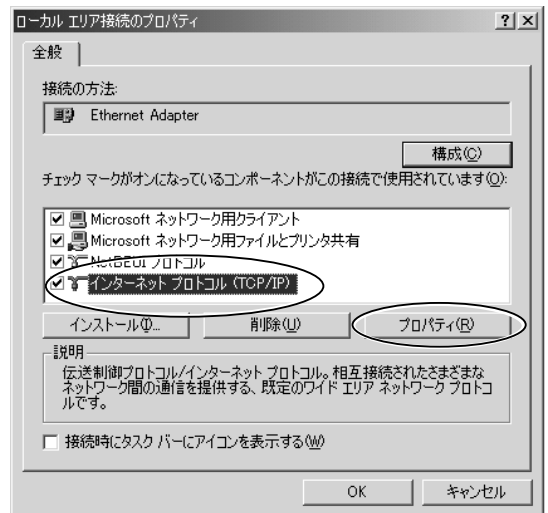
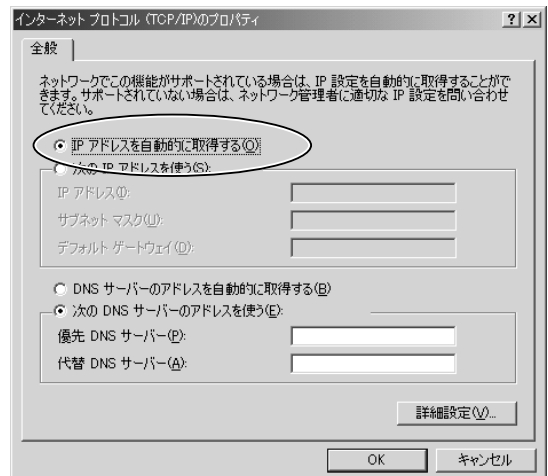
パソコンにMN7500からIPアドレスが割り当てられます。同様に、ホームネットワークに接続している他のパソコンを設定してください。

MN7500の設定を確認するには、33ページの「MN7500にアクセスする」を参照してください。

3-2 Windows 2000 の場合

次の手順にしたがって、各パソコン毎に IP アドレスを設定してください。

1 **「マイ ネットワーク」**アイコンをダブルクリックし、**「ネットワークとダイヤルアップ接続」**をクリックする

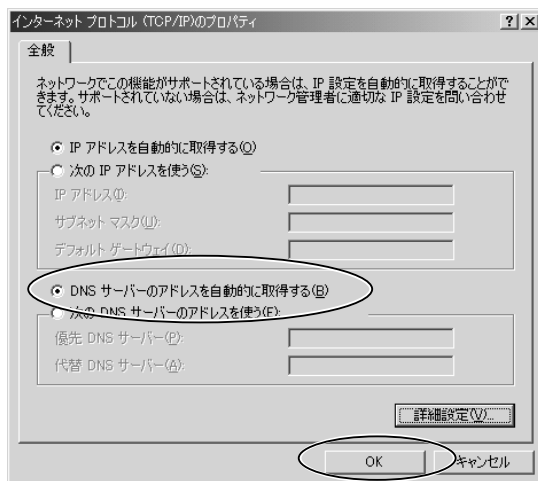
2 MN7500 に接続している**「ローカルエリア接続」**アイコンを右クリックし、**プロパティ**を選ぶ

3 **「インターネットプロトコル（TCP/IP)」**を選び、**プロパティ** をクリックする

4 **「IP アドレスを自動的に取得する」**を選ぶ

5 ［詳細設定...］をクリックする

右の画面を表示します。

6 **「デフォルトゲートウェイ」**の入力欄に何も入力されていないことを確認し、［OK］をクリックする

入力されていた場合は、入力されているIPアドレスを選択し、［削除］をクリックする

7 **「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」**をクリックし、［OK］をクリックする

8 ［OK］をクリックした後、**「ネットワークとダイアルアップ接続」**のウィンドウを閉じる

9 **「マイコンピュータ」**アイコンを右クリックし、**プロパティ**を選ぶ

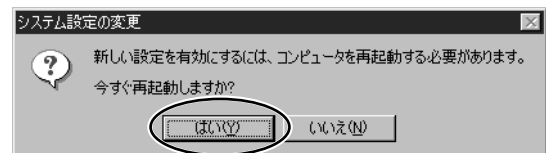
10 **ネットワークID** タブをクリックし、[プロパティ] をクリックする

11 **「コンピュータ名」**と**「ワークグループ」**欄にそれぞれ名前を入力する

「コンピュータ名」はネットワーク上でパソコンを識別するためにつけます。
任意の名前をつけてかまいませんが、他のパソコンと同じ名前はつけないでください。
「ワークグループ」は、ネットワーク上でどのパソコンをどのグループに所属させるかを決めるための名前です。ネットワークで通信したいパソコンには**同じ「ワークグループ」**を入力してください。

12 必要に応じて複数回 [OK] をクリックし、**「システムのプロパティ」**を閉じる

13 [はい] をクリックして、パソコンを再起動する

パソコンに MN7500 から IP アドレスが割り当てられます。同様に、ホームネットワークに接続している他のパソコンを設定してください。

MN7500 の設定を確認するには、33 ページの「MN7500 にアクセスする」を参照してください。

3-3 Windows NT 4.0 の場合

次の手順にしたがって、各パソコン毎に IP アドレスを設定してください。

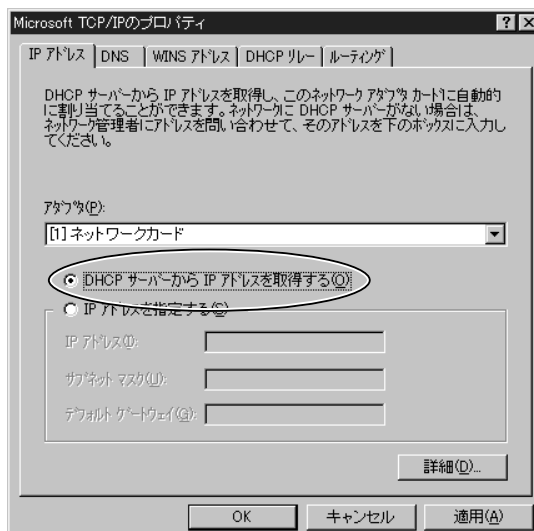
1 **[スタート]** ボタンをクリックし、**設定**を選び、**コントロールパネル**をクリックする

2 **「ネットワーク」**アイコンをダブルクリックする

3 **プロトコル**タブをクリックし、**「TCP/IP プロトコル」**を選び、 **プロパティ** をクリックする

TCP/IP のプロパティダイアログボックスを表示します。

4 **TCP/IP のプロパティ**ダイアログボックスで、**IP アドレス**タブをクリックする

5 MN7500 に接続しているネットワークカードを**「アダプタ」**コンボボックスから選び、**「DHCP サーバーから IP アドレスを取得する」**を選ぶ

6 **「デフォルトゲートウェイ」**の入力欄に何も入力されていないことを確認する

7 [OK] をクリックする

8 **識別**タブをクリックする

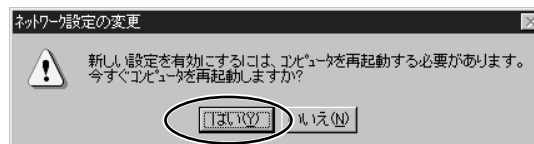
9 必要に応じて [変更...] をクリックし、**「コンピュータ名」**と**「ワークグループ」**欄にそれぞれ名前を入力し、[OK] をクリックする

「コンピュータ名」はネットワーク上でパソコンを識別するためにつけます。
任意の名前をつけてかまいませんが、他のパソコンと同じ名前はつけないでください。
「ワークグループ」は、ネットワーク上でどのパソコンをどのグループに所属させるかを決めるための名前です。ネットワークで通信したいパソコンには**同じ「ワークグループ」**を入力してください。

10 [閉じる] をクリックする

システム設定の変更ダイアログボックスを表示します。

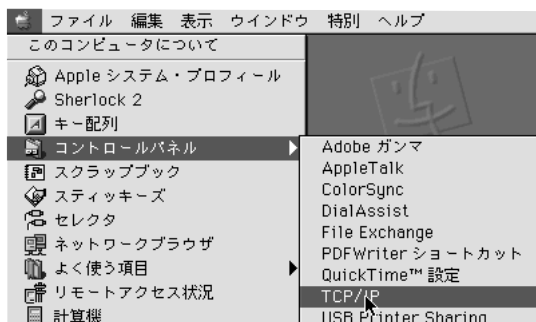
11 [はい] をクリックして、パソコンを再起動する

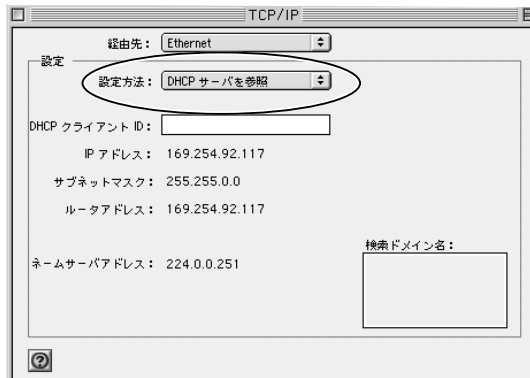
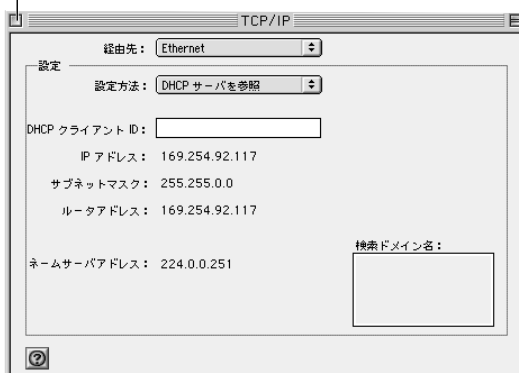
パソコンに MN7500 から IP アドレスが割り当てられます。同様に、ホームネットワークに接続している他のパソコンを設定してください。

MN7500 の設定を確認するには、33 ページの「MN7500 にアクセスする」を参照してください。

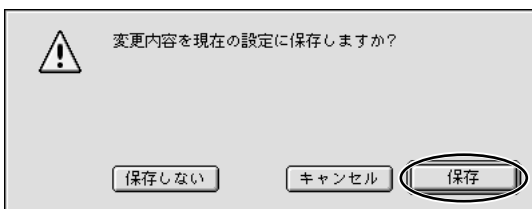
3-4 Mac OS 7.5.3 ～ 9.1 の場合

次の手順は、Mac OS 9.1 operating system software（以下 Mac OS 9.1）を使った場合です。Mac OS のバージョンによっては若干操作方法が異なる場合があります。各パソコン毎に IP アドレスを設定してください。

1 アップルメニューから**コントロールパネル**を選ぶ

2 **コントロールパネル**メニューから **TCP/IP** を選ぶ

3 **経由先**ポップアップメニューから **Ethernet** を選ぶ

4 **設定方法**ポップアップメニューから **DHCP サーバを参照**を選ぶ

5 クローズボタンをクリックする

6 保存 をクリックする

パソコンに MN7500 から IP アドレスが割り当てられます。
同様に、ホームネットワークに接続している他のパソコンを設定してください。

7 Macintosh を再起動する

MN7500 の設定を確認するには、33 ページの「MN7500 にアクセスする」を参照してください。

3-5 Mac OS X の場合

次の手順にしたがって、各パソコン毎に IP アドレスを設定してください。

1 アップルメニューから**システム環境設定…**を選ぶ

システム環境設定画面が表示されます。

2 **「ネットワーク」**アイコンをクリックする

3 **設定**ポップアップメニューから**内蔵 Ethernet** を選ぶ

4 TCP/IP の**設定**ポップアップメニューから **DHCP サーバを参照**を選び、必要に応じて［保存］をクリックする

5 クローズボタンをクリックする

MN7500 の設定を確認するには、33 ページの「MN7500 にアクセスする」を参照してください。

4 MN7500の設定をする

4-1 MN7500にアクセスする

MN7500は、WWWサーバ機能を内蔵しています。MN7500のホームページにアクセスできれば、MN7500とホームネットワークのパソコンは接続されたことになります。次の手順にしたがって、ホームネットワークのパソコンの操作をしてください。

1 WWWブラウザを起動する

2 WWWブラウザのアドレスバーに **http://192.168.0.1** と入力する

ユーザー名・IDと**パスワード**のダイアログボックスが表示されます。

3 **ユーザ名・ID**入力欄に半角小文字で**admin**と入力する

「パスワード」を入力する必要はありません。

(Windows)

ネットワーク パスワードの入力

ユーザー名とパスワードを入力してください。

サイト: 192.168.0.1

領域 Authentication Page

ユーザー名(U) admin

パスワード(P)

このパスワードを保存する(S)

OK キャンセル

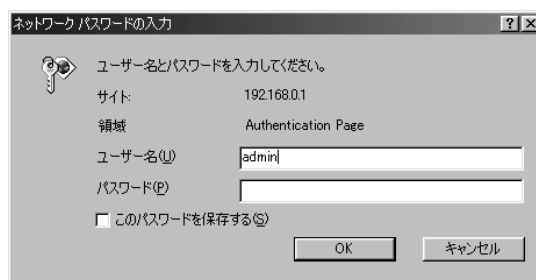
(Macintosh)

"192.168.0.1" へ以下の内容で接続：

ユーザー ID: admin

パスワード：

エリア： Authentication Page

パスワードを保存する　キャンセル　OK

■ **ダイアログボックスが表示されなかった場合**（詳細は103ページを参照してください。）

- アドレスバーにhttp://192.168.0.1と正しく入力されているか、確認してください。
- MN7500とパソコンが正しく接続されているか、確認してください。
- パソコン、MN7500、ホームネットワーク上の機器の電源を適切な順番で入れたか確認してください。詳細は、21ページの「電源を入れる」を参照してください。
- **プロキシサーバー経由でインターネットにアクセスしている場合**
  MN7500のWeb設定画面にアクセスするには、WWWブラウザの設定が必要になる場合があります。81ページを参照の上、設定を確認してください。

MN7500のWeb設定画面上で、パスワードを変更することができます。詳細は、74ページを参照してください。

4 [OK] をクリックする

MN7500 の Web 設定画面を表示します。

- ホームネットワークの設定が完了しました。

■ Web 設定画面が表示されない場合
ユーザ名・ ID 入力欄に **admin**（半角小文字）
を再度入力してください。

基本設定

ご利用のインターネットサービスで利用されている方式を選択してクリックしてください。

- **PPPoE接続（端末型）**
  PPPoE接続で1個のIPアドレスを割当てられる端末型接続サービスをご利用の場合
- **PPPoE接続（LAN型）**
  PPPoE接続で複数のIPアドレスを使用するLAN型接続サービスをご利用の場合
- **DHCP接続 ← 現在設定されている接続形態です。**
  プロバイダのDHCPサーバがIPアドレスを割当てる接続サービスをご利用の場合
- **Static接続**
  1個の固定のIPアドレスを割当てるプロバイダの接続サービスをご利用の場合

Web 設定画面についての詳細は、44 ページの「MN7500 の Web 設定画面について」を参照してください。

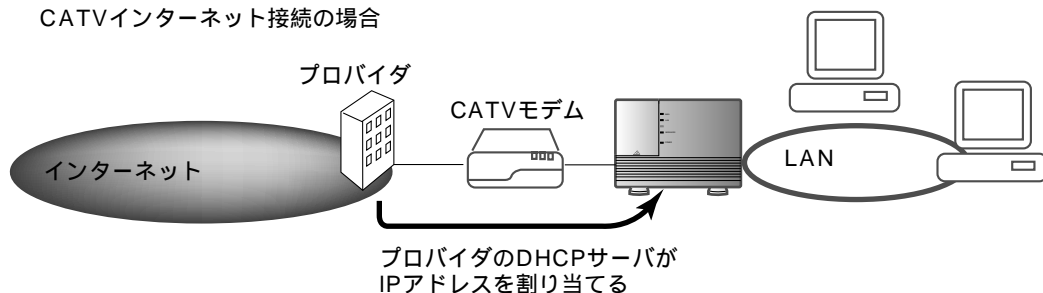
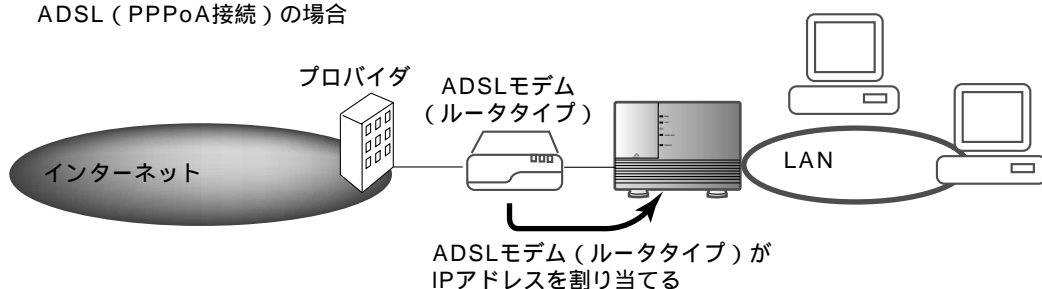
4-2 インターネット接続の設定をする

本製品をインターネットに接続するための接続方法としては、次の 4 種類に分けられます。

- ADSL（PPPoA 接続）と CATV インターネット接続（DHCP 接続）（☞ 次ページ）
- IP アドレス固定のインターネット接続（Static 接続）（☞ 37 ページ）
- PPPoE（端末型）接続（☞ 39 ページ）
- PPPoE（LAN 型）接続（☞ 41 ページ）

インターネット接続のためのパソコンの設定情報（アカウント情報）や「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 15 ページ）を参照して、本製品をインターネットに接続してください。

■ ADSL（PPPoA 接続）と CATV インターネット接続（DHCP 接続）の場合

PPPoA 接続の ADSL で ADSL モデム（ルータタイプ）に MN7500 を接続（IP アドレスを自動的に ADSL モデムから割り当ててもらう）する場合と CATV インターネット接続（IP アドレスを自動的にプロバイダから割り当ててもらう）は、次の手順にしたがってください。

1 **「DHCP 接続」**を選ぶ

基本設定

ご利用のインターネットサービスで利用されている方式を選択してクリックしてください。

- **PPPoE接続（端末型）**

  PPPoE接続で1個のIPアドレスを割当てられる端末型接続サービスをご利用の場合

- **PPPoE接続（LAN型）**

  PPPoE接続で複数のIPアドレスを使用するLAN型接続サービスをご利用の場合

- **DHCP接続** ← **現在設定されている接続形態です。**

  プロバイダのDHCPサーバがIPアドレスを割当てる接続サービスをご利用の場合

- **Static接続**

  1個の固定のIPアドレスを割当てるプロバイダの接続サービスをご利用の場合

2 プロバイダから指定がある場合は、
「デバイス名」※、**「ゲートウェイ」**、**「DNS サーバ 1, 2」**、**「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」（☞ 15 ページ）やアカウント情報を元に入力してください。

元の設定に戻すには、取り消し をクリックしてください。

DHCP接続設定

DHCPサーバを使用するインターネット接続サービスをご利用の場合の設定を行います。
接続先のインターネット・サービス・プロバイダにより設定内容は異なります。詳しくはプロバイダの提供する設定マニュアルをご参照ください。

- プロバイダから指定がある時に入力

デバイス名
ゲートウェイ

DNS サーバ1
DNS サーバ2
ドメイン名

保存　取り消し　戻る

※「デバイス名」とは、プロバイダによってはパソコンのコンピュータ名入力欄に入力する ID と指示されている場合があります。

3 設定値の入力を終えたら、保存 をクリックする

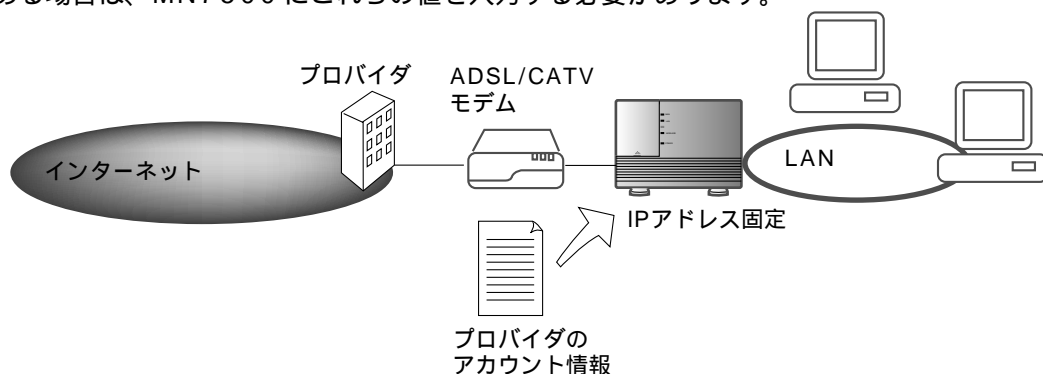
新しく設定した内容が保存されます。

4 Web 設定画面に 再起動 が表示されたら、それをクリックする

5 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをハブに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■ IP アドレス固定のインターネット接続（Static 接続）の場合

プロバイダからのアカウント情報にIP アドレスやゲートウェイアドレス等の値を入力するように指示がある場合は、MN7500 にこれらの値を入力する必要があります。

1 **「Static 接続」**を選ぶ

基本設定

ご利用のインターネットサービスで利用されている方式を選択してクリックしてください。

- **PPPoE接続（端末型）**

  PPPoE接続で1個のIPアドレスを割当てられる端末型接続サービスをご利用の場合

- **PPPoE接続（LAN型）**

  PPPoE接続で複数のIPアドレスを使用するLAN型接続サービスをご利用の場合

- **DHCP接続 ← 現在設定されている接続形態です。**

  プロバイダのDHCPサーバがIPアドレスを割当てる接続サービスをご利用の場合

- **Static接続**

  1個の固定のIPアドレスを割当てるプロバイダの接続サービスをご利用の場合

2 **「IP アドレス」、「ネットマスク」、「ゲートウェイ」、「DNS サーバ 1, 2」**を入力し、プロバイダから指定がある場合は**「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」

（☞ 15 ページ）やアカウント情報を元に入力してください。

元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックしてください。

Static接続設定

Static接続（プロバイダが１個の固定IPアドレスを指定）を使用するインターネット接続サービスをご利用の場合の設定を行います。
接続先のインターネット・サービス・プロバイダにより設定内容は異なります。詳しくはプロバイダの提供する設定マニュアルをご参照ください。

• 基本設定

IP アドレス　　　ネットマスク

ゲートウェイ

DNS サーバ1

DNS サーバ2

• プロバイダから指定がある時に入力

ドメイン名

保存　取り消し　戻る

3 設定値の入力を終えたら、**保存** をクリックする

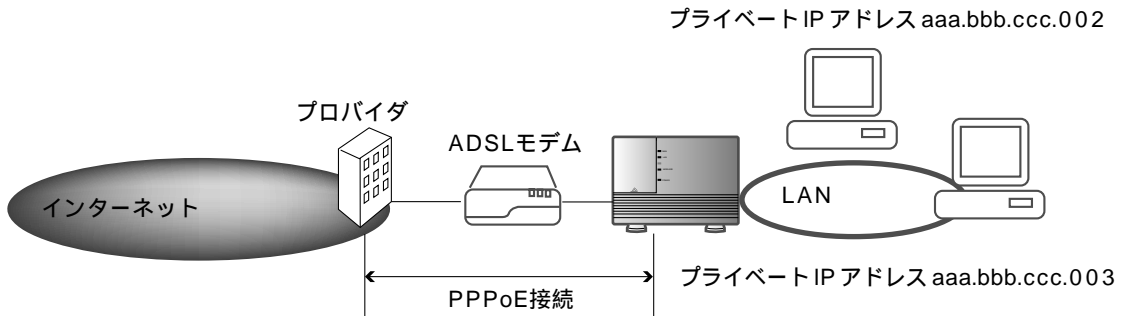
新しく設定した内容が保存されます。

4 Web 設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

5 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをハブに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■ PPPoE 接続（端末型）の場合

PPPoE 接続（端末型）の設定は、次の手順に従ってください。

1 **「PPPoE 接続（端末型）」**を選ぶ

基本設定

ご利用のインターネットサービスで利用されている方式を選択してクリックしてください。

- **PPPoE接続（端末型）**

  PPPoE接続で1個のIPアドレスを割当てられる端末型接続サービスをご利用の場合

- **PPPoE接続（LAN型）**

  PPPoE接続で複数のIPアドレスを使用するLAN型接続サービスをご利用の場合

- **DHCP接続** ← **現在設定されている接続形態です。**

  プロバイダのDHCPサーバがIPアドレスを割当てる接続サービスをご利用の場合

- **Static接続**

  1個の固定のIPアドレスを割当てるプロバイダの接続サービスをご利用の場合

2 **「ユーザ名」**と**「パスワード」**を入力し、プロバイダから指定がある場合は**「サービス名」、「アクセスコンセントレータ名」、「DNS サーバ 1、2」、「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」
（☞ 15 ページ）やアカウント情報を元に入力してください。

元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックしてください。

- データ入力欄には、スペースを入れないでください。
- 「サービス名」、「アクセスコンセントレータ名」、「DNS サーバ 1」、「DNS サーバ 2」、「ドメイン名」は、プロバイダから指定がない場合入力しないでください。

3 **保存** をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

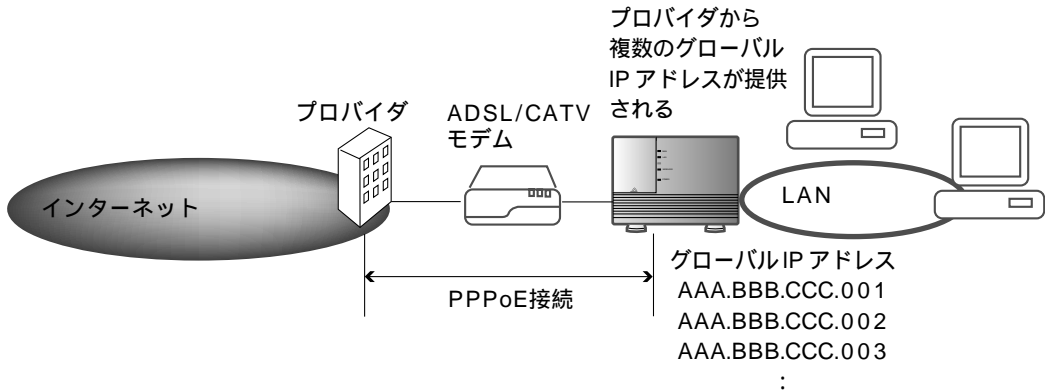
4 Web 設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

5 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをハブに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■ PPPoE 接続（LAN 型）の場合

PPPoE 接続（LAN 型）は、複数のグローバル IP アドレスをプロバイダから提供される接続形態です。（☞ 85 ページ）

PPPoE 接続（LAN 型）の設定は、次の手順に従ってください。

1 **「PPPoE 接続（LAN 型）」**を選ぶ

基本設定

ご利用のインターネットサービスで利用されている方式を選択してクリックしてください。

- **PPPoE接続（端末型）**

  PPPoE接続で1個のIPアドレスを割当てられる端末型接続サービスをご利用の場合

- **PPPoE接続（LAN型）**

  PPPoE接続で複数のIPアドレスを使用するLAN型接続サービスをご利用の場合

- **DHCP接続** ← **現在設定されている接続形態です。**

  プロバイダのDHCPサーバがIPアドレスを割当てる接続サービスをご利用の場合

- **Static接続**

  1個の固定のIPアドレスを割当てるプロバイダの接続サービスをご利用の場合

2 **「ユーザ名」**と**「パスワード」、「DNS サーバ 1、2」、「IP アドレス」、「ネットマスク」**を入力し、プロバイダから指定がある場合は**「サービス名」、「アクセスコンセントレータ名」、「ドメイン名」**を入力する

「インターネット接続に関する情報を集める」
（☞ 15 ページ）やアカウント情報を元に入力してください。

ルータ本体の IP アドレスについて
プロバイダから割り当てられたグローバル IP アドレスの 1 つを「ルータ本体の IP アドレス」に入力してください。ルータからインターネット側に直接送信する時に、この IP アドレスを送信元 IP アドレスとして使います。

元の設定に戻すには、[**取り消し**] をクリックしてください。

- データ入力欄には、スペースを入れないでください。
- 「サービス名」、「アクセスコンセントレータ名」、「ドメイン名」は、プロバイダから指定がない場合入力しないでください。

3 設定を終えたら、[**保存**] をクリックする

新しく設定した内容が保存されます。

4 Web 設定画面に [**再起動**] が表示されたら、それをクリックする

5 ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動する

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。
- 設定完了後パソコンを増設する場合は、増設するパソコンをハブに接続してから再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

4-3 インターネットへの接続を確認する

■ 設定の確認

インターネットに接続するための設定が終わったら、インターネット上の WWW（ワールド ワイド ウェブ）サイトにアクセスしてください。WWW サイトが表示されたら、インターネットに接続されたことになります。

1 WWW ブラウザを起動する

2 WWW ブラウザのアドレスバーに WWW サイトのアドレス（例 http://www.ntt-me.co.jp/）を入力する

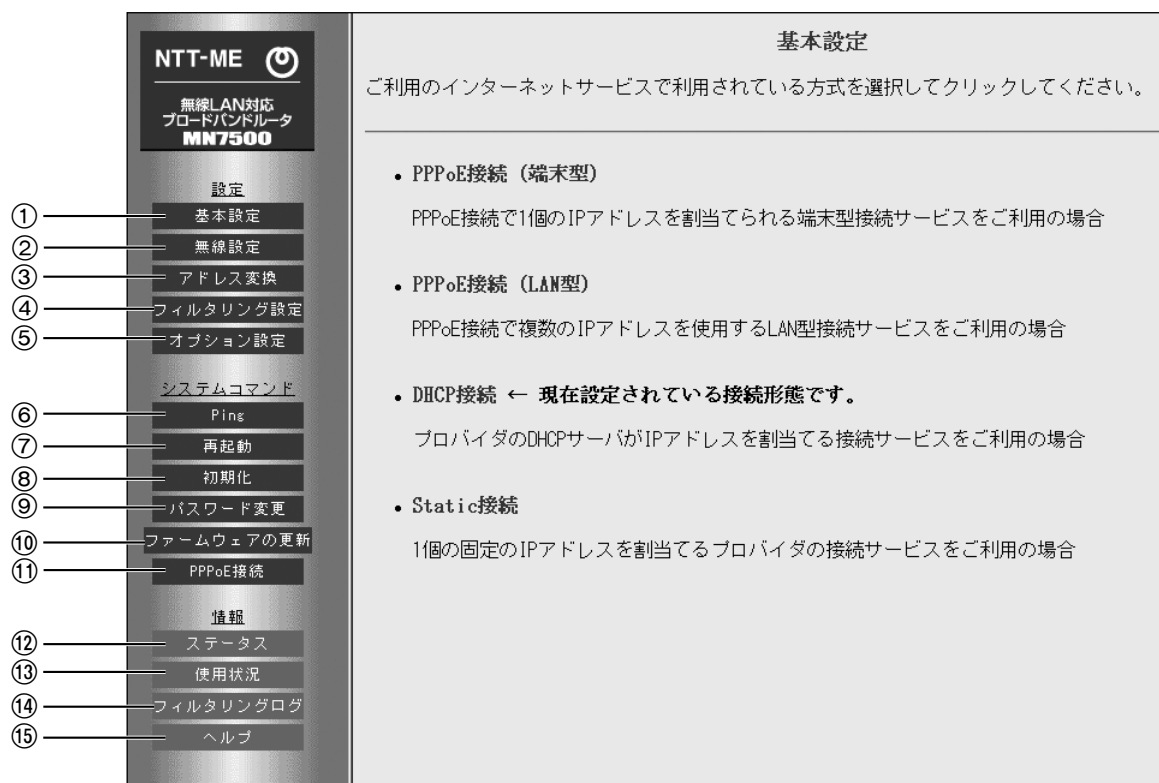
WWW サイトが表示されます。

■ WWW サイトが表示されなかった場合（詳細は 104 ページを参照してください。）

- WWW サイトのアドレスが WWW ブラウザのアドレスバーに正しく入力されているか、確認してください。
- 「MN7500 にアクセスする」（☞ 33 ページ）をおこなったか、確認してください。
- MN7500 と ADSL/CATV モデムが接続されているか、確認してください。
- パソコン、MN7500、ADSL/CATV モデム、ホームネットワークの周辺機器の電源を適切な順番で入れたか、確認してください。詳細は、「電源を入れる」（☞ 21 ページ）を参照してください。
- プロバイダから受け取ったインターネットへの接続に関する情報を確認してください。 設定値を入力する必要があれば、「インターネット接続の設定をする」（☞ 34 ページ）を参照し、MN7500 に設定値を入力してください。

PPPoE 接続でインターネットに接続している時に、MN7500 を再起動する場合は、インターネットとの接続を切断（☞ 77 ページ）してから再起動してください。切断せずに再起動すると、5 ～ 20 分インターネットに接続できなくなります。

MN7500 の Web 設定画面について

MN7500 の設定は、パソコンから WWW ブラウザを使っておこなうことができます。※
各項目ごとに操作に関するヘルプ画面を参照できます。

【設定】

① **基本設定：** インターネットにアクセスするための基本的な設定をします。

② **無線設定：** 無線ネットワークの設定とセキュリティの設定をします。
「無線設定」は、無線 LAN カード (MN SS-LAN CARD11 HQ) を MN7500 の無線 LAN カードスロットに装着していないと表示されません。

③ **アドレス変換：** アドレス変換はプロバイダから提供されたグローバル IP アドレスとプライベート IP アドレスを相互変換して、ホームネットワークに接続しているプライベート IP アドレスを持ったパソコンをインターネットに接続する機能です。

④ **フィルタリング設定：** ファイアウォールの機能の一つで、送信しているデータの IP アドレス、ポート番号、プロトコルを元に通過・遮断するパケットを判断します。

⑤ **オプション設定：** ホームネットワークにアクセスするための設定と、インターネットにアクセスするための詳細な設定をします。

※ Web 設定画面は、実際のものと異なる場合があります。

【システムコマンド】

⑥ **Ping ：**	IP アドレスを持った機器が MN7500 に接続されているか、確認します。
⑦ **再起動：**	設定値を変更しないで MN7500 を再起動します。
⑧ **初期化：**	MN7500 を初期化します。設定値は工場出荷時に設定されている標準設定値に設定されます。
⑨ **パスワード変更：**	MN7500 の Web 設定画面にアクセスするためのユーザー名・ID やパスワードを変更します。
⑩ **ファームウェアの更新**※**：**	MN7500 のファームウェアを最新版に更新します。
⑪ **PPPoE 接続：**	プロバイダへの PPPoE 接続を手動で開始または停止します。

【情報】

⑫ **ステータス：**	MN7500 のシリアルナンバー等の情報を表示します。
⑬ **使用状況：**	MN7500 のデーターの通信状態を表示します。
⑭ **フィルタリングログ：**	フィルタリング設定の条件に一致した通信記録を表示します。
⑮ **ヘルプ：**	MN7500 の Web 設定画面のコマンドや機能について説明します。

※この機能を使って最新のファームウェアをダウンロードするには、インターネットへの接続が必要になります。

基本設定

プロバイダから、インターネット接続のため、パスワード等を入力するように指示される場合があります。MN7500 を設定するには、次の手順にしたがってください。

1 [基本設定] をクリックする

右の画面を表示します。
それぞれの入力欄については、次ページを参照してください。

基本設定

ご利用のインターネットサービスで利用されている方式を選択してクリックしてください。

- **PPPoE接続（端末型）**

  PPPoE接続で1個のIPアドレスを割当てられる端末型接続サービスをご利用の場合

- **PPPoE接続（LAN型）**

  PPPoE接続で複数のIPアドレスを使用するLAN型接続サービスをご利用の場合

- **DHCP接続** ← **現在設定されている接続形態です。**

  プロバイダのDHCPサーバがIPアドレスを割当てる接続サービスをご利用の場合

- **Static接続**

  1個の固定のIPアドレスを割当てるプロバイダの接続サービスをご利用の場合

2 インターネット接続のためのアカウント情報を元に接続方法を選ぶ

設定画面を表示します。

3 データ入力欄に設定値を入力する

元の設定に戻すには、[取り消し] をクリックする

4 設定値の入力を終えたら、[保存] をクリックする

設定した内容が保存されます。

5 Web 設定画面に [再起動] が表示されたら、それをクリックする

- 基本設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているパソコンも再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

データ入力欄について

データ入力欄に設定する内容がない場合は、空欄のままにしてください。

＜インターネットへの接続＞

インターネットへの接続方法はプロバイダによって異なります。プロバイダからの設定情報を見て、接続方法を確認してください。次に、MN7500 の Web 設定画面上で、PPPoE 接続（端末型）、PPPoE 接続（LAN 型）、DHCP 接続、Stastic 接続の中から接続方法※を選び、必要に応じて設定値を入力してください。

※インターネットの接続方法が、PPPoE 接続（端末型）、PPPoE 接続（LAN 型）、DHCP 接続、Stastic 接続のどれに該当するか、などサービス内容や契約内容に関して、詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。

PPPoE 接続（端末型） ● **ユーザ名／パスワード** ● **サービス名** ● **アクセスコンセントレータ名** ● **DNS サーバ 1 ／ DNS サーバ 2** ● **ドメイン名**	通常の PPPoE 接続をする場合、これらのデータ入力欄の入力が必要になります。 プロバイダのアカウント情報を参照の上、ユーザ名とパスワードを入力してください。 プロバイダから指定がある場合は、サービス名、アクセスコンセントレータ名、DNS サーバ 1、DNS サーバ 2、ドメイン名を入力してください。
PPPoE 接続（LAN 型） ● **ユーザ名／パスワード** ● **DNS サーバ 1 ／ DNS サーバ 2** ● **サービス名** ● **アクセスコンセントレータ名** ● **ドメイン名**	PPPoE 接続で、複数個のグローバル IP アドレスをプロバイダから提供される場合、これらのデータ入力欄の入力が必要になります。 プロバイダのアカウント情報を参照の上、ユーザ名、パスワード、DNS サーバ 1、DNS サーバ 2 を入力してください。 プロバイダから指定がある場合は、サービス名、アクセスコンセントレータ名、ドメイン名を入力してください。
ルータ本体の IP アドレス ● **IP アドレス／ネットマスク**	通常は、接続時にルータの WAN 側ポートにグローバル IP アドレスが自動的に割り当てられます。 プロバイダの PPPoE サーバが Unnumbered の場合は、ルータの WAN 側のポートにグローバル IP アドレスが割り当てられませんので、プロバイダから割り当てられる複数のグローバル IP アドレスの 1 つをここに入力してください。WAN 側に送信する時に、この IP アドレスを送信元 IP アドレスとして使います。

機能

DHCP 接続 **● デバイス名** **● ゲートウェイ** **● DNS サーバ 1 ／ DNS サーバ 2** **● ドメイン名**	プロバイダが DHCP サーバ機能を利用している場合、基本的に設定値の入力は必要ありませんが、デバイス名、ゲートウェイ、DNS サーバ 1、DNS サーバ 2、ドメイン名の入力を求められる場合があります。プロバイダのアカウント情報を参照の上、必要に応じて入力してください。
Static 接続 **● IP アドレス** **● ネットマスク** **● ゲートウェイ** **● DNS サーバ 1 ／ DNS サーバ 2** **● ドメイン名**	プロバイダが IP アドレスを指定してきた場合、IP アドレス、ネットマスク（サブネットマスク）、ゲートウェイ、DNS サーバ 1、DNS サーバ 2 を入力してください。 プロバイダから指定がある場合は、ドメイン名を入力してください。

無線設定※1

無線設定画面では、MN7500を無線ネットワークに接続するための設定やセキュリティの設定をおこないます。無線ネットワークでは、テレビやトランシーバーと同じように電波を使い、通信チャネルを選択して通信します。また、ネットワークに名前（SSID）をつけます。同じSSIDと通信チャネルの機器同士でのみ接続することができます。無線ネットワークに接続する機器には同じSSIDと通信チャネル※2を設定してください。

- 無線ネットワークでは、電波を使って通信をおこなうため、他人がネットワークに侵入したりする可能性がありますので、セキュリティの設定をおこなうことをおすすめします。(☞ 84ページ)
- MN7500を複数台接続してローミング機能を使うことができます。(☞ 54ページ)

1 MN7500のWeb設定画面上の[無線設定]をクリックする

それぞれの入力欄については、次ページを参照してください。

2 **SSID入力欄**にSSIDを入力し、**「SSID空白のクライアントの接続」**と**「通信チャネル」**を選ぶ

元の設定に戻すには、[取り消し]をクリックしてください。
MN7500に接続する無線LANの端末にも同じSSIDを入力してください。

3 設定を終えたら、[保存]をクリックする

設定した内容が保存されます。
PPPoE接続でインターネットに接続している場合は、ここで[PPPoE接続]をクリックし、[切断]をクリックして再起動してください。

※1 「無線設定」は、無線LANカード(MN SS-LAN CARD11 HQ)をMN7500の無線LANカードスロットに装着していないと表示されません。

※2 MN7500に接続する無線LANの端末は、MN7500と同じSSIDが設定されていれば通信チャネルを自動的に検索し通信することができます。

Web 設定画面に 再起動 が表示されたら、それをクリックする

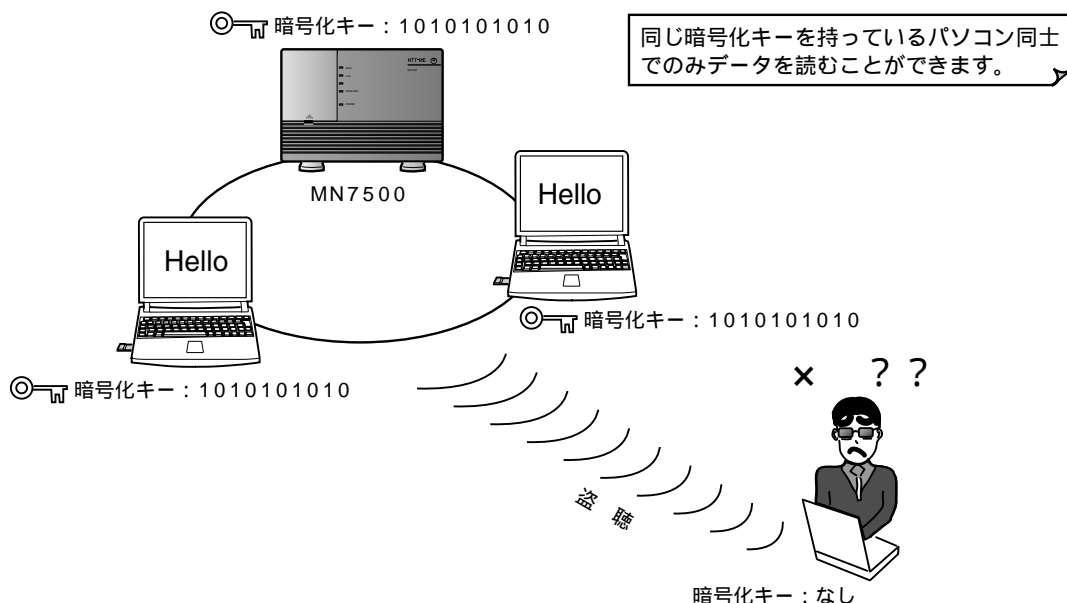
データ入力欄には、スペースを入れないでください。

データ入力欄について

項目	説明
SSID	無線ネットワークでは、ネットワークに名前をつけます。この名前を SSID（ESSID）と呼びます。SSID は無線ネットワークに接続できる各機器に設定し、同じ SSID を持つ機器同士でのみ通信ができます。SSID の入力では、次の規則に従ってください。（標準で“ MN7500 ”が入力されています。） ● 半角英数字しか入力できません。 ● 英字の大文字と小文字は区別されます。 （例）：“ TOM ”と“ tom ”は異なる名前と認識される ● 32 文字まで入力できます。
セキュリティ	**「許可」**を選ぶと、SSID に“ ANY ”もしくは未入力のパソコンが接続できます。（MN7500 の SSID の値が該当するパソコンの SSID の設定値になります。）セキュリティ上「禁止」を選ぶことをおすすめします。
通信チャネル	ネットワーク内で通信するチャネルを設定します。1 ～ 14 の中から選んでください。（標準で 1 が選択されています。）複数の無線ネットワークで通信チャネルが重なると通信速度が下がる場合があります。その場合は、通信チャネルが重ならないように通信チャネルを変更してください。 1チャネル 6チャネル 11チャネル 2チャネル 7チャネル 12チャネル 3チャネル 8チャネル 13チャネル 4チャネル 9チャネル 14チャネル 5チャネル 10チャネル 2400MHz 2500MHz

必要に応じて「暗号化」や「MAC アドレスフィルタリング」を設定してください。通信データを暗号化するには「無線設定」画面の上の「暗号化」をクリックしてください。（☞ 51 ページ）
MN7500 に登録した無線 LAN カード以外が接続できないようにするには、「MACアドレスフィルタリング」をクリックしてください。（☞ 53 ページ）

■ 暗号化設定

無線ネットワーク内で通信するデータを暗号化することができます。暗号化をおこなうと、万一無線ネットワークのデータを他人に読まれても解読することが困難になります。暗号化は無線ネットワークの全てのパソコンが同じ暗号化キーを登録しておこないます。
また、暗号化設定時の認証方式として Shared Key 方式だけでなく、Open System 方式（例えば IBM ThinkPad Series s30 やメルコ WLI-PCM-L11 を使っている無線端末）にも対応しました。認証方式の切替えは MN7500 が端末に合わせて自動でおこないます。無線端末の認証方式を意識することなく暗号化設定をおこなうことができます。

暗号化キーはキーワードを元に作成します。暗号化キーは 40bit と 128bit の 2 種類あります。128bit の暗号化キーはさらに安全性が高まります。

1 **「有効（40bit）」**か**「有効（128bit）」**を選ぶ

「有効（40bit）」を選んだ場合は、**「標準キー」**を 1 つ選んでください。パソコンにも、MN7500 と同じ 40bit キーを設定し、同じ標準キーを選んでください。

機能

2 **「キーワード」**を入力して、 保存 をクリックする

異なる機種の無線LANカードと同じ暗号化キーで接続するには、手動設定 を選び10桁（40bitの場合）か26桁（128bitの場合）の16進数を入力して 保存 をクリックしてください。

3 設定内容を確認の上、再起動 をクリックする

PPPoE接続でインターネットに接続している場合は、ここで PPPoE接続 をクリックし、切断 をクリックして再起動してください。

暗号化の設定内容は 保存 をクリックすると表示されます。
設定内容は、MN7500を再起動すると＊（アスタリスク）で表示され、わからなくなります。
必ずメモに記録しておき大切に保管してください。

データ入力欄について

項目	説明
40bit／128bit	暗号化キーのビット数を選びます。暗号化なし→40bit暗号化→128bit暗号化の順で安全性が高まりますが、通信速度が若干低下します。
標準キー	暗号化キーで40bitを選んだ場合は、4つの標準キーの内の1つを選んでください。
キーワード	暗号化キーを生成する文字を半角英数字31文字以内で入力してください。英字は大文字と小文字の区別があります。
手動設定	異なる機種の無線LANカードに接続する時は、無線LANカードによって同じ暗号のキーワードを入力しても別の暗号化キーが生成されます。その場合は、手動設定で暗号化キーを入力してください。通信したいパソコンと全く同じ暗号化キーを入力してください。40bitの場合は、4つのキーの各々に10桁の16進数の同じ値を入力し、標準キーを選んでください。パソコンにも、MN7500と同じ40bitキーを設定し、同じ標準キーを選んでください。128bitの場合は、1つのキーに26桁の16進数の同じ値を入力してください。

■ MAC アドレスフィルタリング登録

MN7500 に接続できるパソコンを制限することができます。各パソコンのネットワークカードにはそのネットワークカードに固有の MAC アドレスが登録されています。その MAC アドレスの値を「MAC アドレスフィルタリング登録」に登録すると、登録した MAC アドレスを持つパソコン以外は MN7500 に接続できなくなります。なお、各パソコンの MAC アドレスの確認のしかたは「パソコンの IP アドレスや MAC アドレスを確認するには」(☞ 98 ページ）を参照してください。

1 **「使用する」**を選ぶ

2 MAC アドレスをデータ入力欄に入力する

半角数字と A ～ F または a ～ f を 2 文字ずつ：で区切って入力してください。

3 保存 をクリックする

機能

■ IAPP(Inter Access Point Protocol)ローミング機能について

無線LANカードのMN SS-LAN CARD11 HQが装着されているMN7500がアクセスポイントとして複数台ある場合、パソコンが移動するとそれに応じてアクセスポイントが自動的に変更されるローミング機能が使えます。IAPP機能により、どのパソコンがどのアクセスポイントにあるかという情報をアクセスポイント同士でリアルタイムに送信します。
なお、ローミングの有効/無効の設定はありません。常にローミング機能が働きます。

同じSSIDと暗号化設定のMN7500や無線端末でローミングできます。

インターネット

1台目のMN7500
IP:192.168.0.1/24
DHCP ON

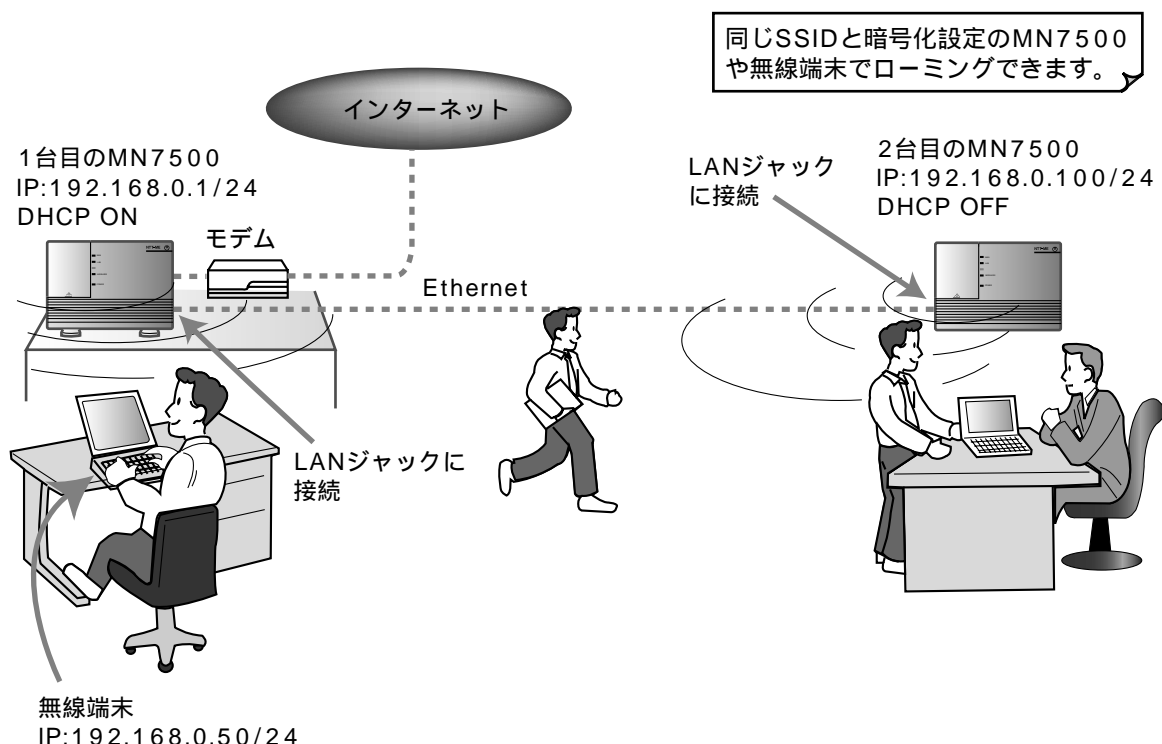
モデム

Ethernet

LANジャックに接続

2台目のMN7500
IP:192.168.0.100/24
DHCP OFF

LANジャックに接続

無線端末
IP:192.168.0.50/24

ローミングを利用するためのポイント

ローミングを利用するために次のポイントに注意して接続してください。

- アクセスポイントとして使用するMN7500同士のHUB/PC切替スイッチをPC側にセットしてLANジャックをストレートケーブルで接続してください。
- 各MN7500やパソコンの無線設定で、同じSSIDと同じ暗号化設定にしてください。（通信チャネルは異なっていても接続できます。）
- 接続するMN7500やパソコンは同一サブネット（上記例では192.168.0.0）にしてください。
- 各MN7500の通信チャネルを異なるように設定してください。(☞ 49ページ)
- インターネットに接続している1台目のMN7500はDHCP ONに、2台目以降のMN7500はすべてDHCP OFFにしてください。
- 2台目以降のMN7500に割り当てるIPアドレスは、DHCPサーバで使うアドレス範囲等と重複しないように異なるアドレスを設定してください。

- IAPP機能を使用できるのはMN128 SS-LAN Card 11HQを装着したアクセスポイント同士だけです。
- 2台目以降のMN7500はインターネットに接続しないでください。

アドレス変換

アドレス変換画面では、プロバイダから提供されるグローバルIP アドレスとプライベートIP アドレスを相互変換してホームネットワークの端末からインターネットにアクセスするための詳細な設定をおこないます。通常は、次のような条件でホームネットワークを設定する以外は変更しないでください。

- 複数個のグローバルIP アドレスをプロバイダから提供されており、そのいくつかをホームネットワーク内のパソコンのプライベートIP アドレスに１対１で割り当てる。(☞ 56 ページ)
- 一部のネットワークゲームやメッセージングツールを使う。(☞ 56、60 ページ)
- WWW サーバやメールサーバを立ち上げる。(☞ 56、60 ページ)

1 MN7500 の Web 設定画面上の [アドレス変換] をクリックする

2 「アドレス変換」で「使用する」か「使用しない」を選ぶ

通常は「使用する」を選んでください。
プロバイダから提供される複数の IP アドレスを利用してアドレス変換する場合は、「使用する」を選んで、[LAN 型] をクリックしてください。
プロバイダから提供される 1 個の IP アドレスを利用して静的 IP マスカレードの設定をする場合は、「使用する」を選んで、[端末型] をクリックしてください。

3 設定を終えたら、[保存] をクリックする

設定した内容が保存されます。
PPPoE 接続でインターネットに接続している場合は、ここで [PPPoE 接続] をクリックし、[切断] をクリックして再起動してください。

4 Web 設定画面に [再起動] が表示されたら、それをクリックする

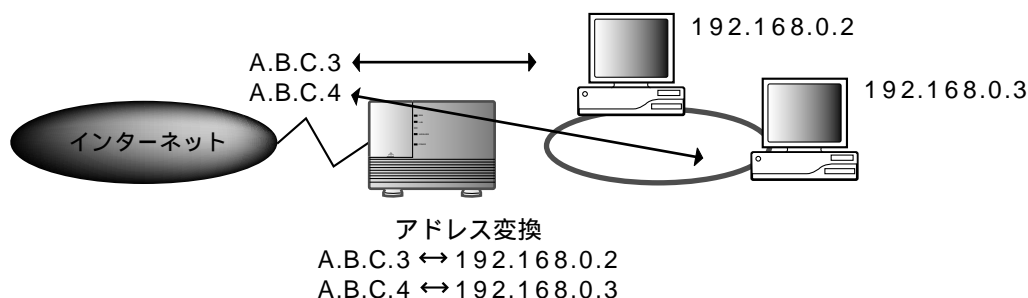
- アドレス変換を変更した場合、MN7500 に接続しているパソコンの設定もおこない、パソコンを再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

＜LAN 型＞

プロバイダから複数のグローバル IP アドレスを提供されている時、グローバル IP アドレスとプライベート IP アドレスの相互変換の設定をおこないます。

静的 NAT

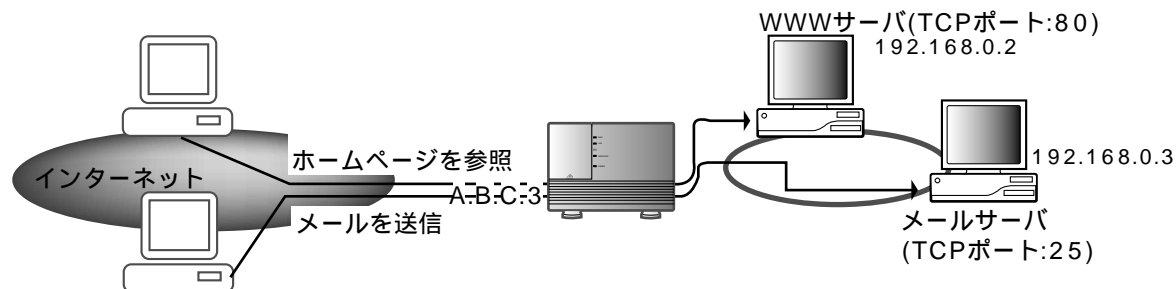
プロバイダから提供されたグローバル IP アドレスと、ホームネットワークのパソコンのプライベート IP アドレスを１対１で対応させます。

設定例：

グローバル IP アドレス A.B.C.3 とプライベート IP アドレス 192.168.0.2 を、A.B.C.4 と 192.168.0.3 をそれぞれ 1 対 1 で対応させる場合は、次のように入力してください。必ず転送対象プロトコルとポートに " ＊ " を選んでください。

機能	エントリ	インターネット側IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側IPアドレス
	有効	A.B.C.3	*	*	192.168.0.2
	有効	A.B.C.4	*	*	192.168.0.3

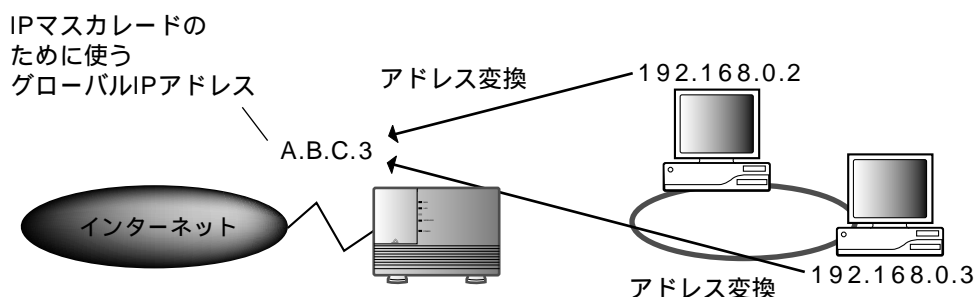
静的 IP マスカレード（ポートフォワーディング）

１つのグローバル IP アドレスを使ってインターネット上のアプリケーションからホームネットワークの複数のパソコンを参照することができます。

設定例：

グローバル IP アドレス A.B.C.3 を通して 192.168.0.2 のパソコンの WWW サーバを参照させたり、192.168.0.3 のパソコンのメールサーバを参照させるには次のように入力してください。

機能	エントリ	インターネット側IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側IPアドレス
	有効	A.B.C.3	TCP	80	192.168.0.2
	有効	A.B.C.3	TCP	25	192.168.0.3

IP マスカレード

１つのグローバル IP アドレスを使って複数のパソコンからインターネットにアクセスする時にこの機能を使います。

プロバイダから提供されたグローバルIPアドレス
A.B.C.0　A.B.C.1　A.B.C.2
A.B.C.3　A.B.C.4　A.B.C.5

機能	エントリ	インターネット側IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側IPアドレス
静的アドレス変換	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
	無効				
IPマスカレード		A.B.C.3	−	−	(注)

(注)静的アドレス変換に設定されていないその他全てのホーム側IPアドレス
(192.168.0.2～192.168.0.254 : ホーム側IPアドレス/ネットマスク設定が
192.168.0.1/255.255.255.0の場合)

保存　取り消し

● **エントリ**	“ 有効 ” あるいは、“ 無効 ” を選んでください。“ 有効 ” を選んだ場合、エントリはテーブル（インターネット側 IP アドレス、ホーム側 IP アドレス）に設定したように機能します。“ 無効 ” を選んだ場合、他の項目を設定しても機能しませんが、“ 有効 ”を選び直すと機能するようになります。
● **インターネット側 IP アドレス**	インターネット側でデータのやり取りをするグローバル IP アドレスを入力してください。
● **転送対象プロトコル**	インターネットでデータを送受信する際に使うプロトコルを選んでください。TCP、UDP、TCP&UDP、ICMP、PPTP、＊の中から選ぶことができます。“ ＊ ” を選ぶと自動的に転送対象ポートも “ ＊ ” となり、静的 NAT の設定になります。
● **転送対象ポート**	インターネットでデータを送受信する際に使うポートを指定してください。ポート番号は半角文字で入力し、スペースは入力しないでください。 ● ポートを 1 つだけ利用したいときは、そのポート番号を入力してください。 ● ポートの範囲を指定したい場合は、“ － ” を使って入力してください。例えば 2000 から 3000 までのポートを利用したい場合は、“ 2000 － 3000 ” と入力してください。小さいポート番号が左に、大きいポート番号が右になるように入力してください。 ● ＊を選ぶと全てのポートが選ばれます。
● **ホーム側 IP アドレス**	ホームネットワークに接続されたパソコンのプライベート IP アドレスを設定してください。インターネットからのデータは、この IP アドレスに送られます。この場合、対応するパソコンの IP アドレスをこの値に固定してください。
● **IP マスカレード**	静的アドレス変換のエントリに設定していない複数のプライベート IP アドレスを持つパソコンからインターネットにアクセスする時、ここに入力したグローバル IP アドレスに変換され使用されます。何も入力していないと、基本設定で指定したグローバル IP アドレスかプロバイダが割り当てた IP アドレスが使用されます。

LAN 型の設定で注意すべき事柄

- インターネット側 IP アドレスが異なる時、ホーム側 IP アドレスを重複させることはできません。

機能	エントリ	インターネット側 IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側 IPアドレス
	有効	A.B.C.2	TCP	10	192.168.0.2
	有効	A.B.C.3	TCP	20	192.168.0.2
	有効	A.B.C.4	TCP	30	192.168.0.2

同一のアドレスを入力しない

- 転送対象プロトコルと転送対象ポートの両方を“＊”に設定した場合は、その設定が優先するため、その他の設定が無視される場合があります。
  特定のポートを使用するパケットは、192.168.0.2 ～ 4 に転送し、それ以外のポートは 192.168.0.5 に転送する場合、転送対象プロトコルと転送対象ポートの両方に“＊”を入力すると、4 番目の設定が優先されるので上の 3 つの転送の設定が処理されません。

機能	エントリ	インターネット側 IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側 IPアドレス
	有効	A.B.C.2	TCP	10	192.168.0.2
	有効	A.B.C.2	TCP	20	192.168.0.3
	有効	A.B.C.2	TCP	30	192.168.0.4
	有効	A.B.C.2	*	*	192.168.0.5

この場合、下図のように転送対象プロトコルと転送対象ポートのどちらかを設定すると、上の行から順番に処理されます。

機能	エントリ	インターネット側 IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側 IPアドレス
	有効	A.B.C.2	TCP	10	192.168.0.2
	有効	A.B.C.2	TCP	20	192.168.0.3
	有効	A.B.C.2	TCP	30	192.168.0.4
	有効	A.B.C.2	TCP	*	192.168.0.5

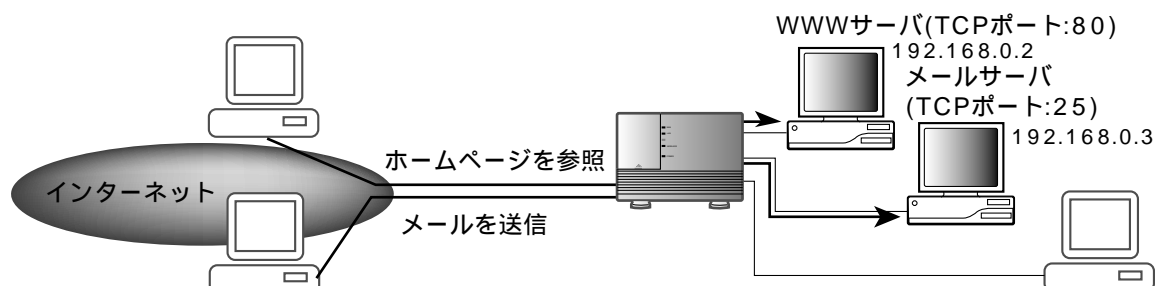
TCP を選択

おねがい

安全のために外部から LAN 側を参照できないようにフィルタリングの設定がおこなわれています。サーバを外部から参照させるには、該当するポート番号を通過させるフィルタを追加するか、エントリ番号 60 の項目を許可にしてください。（☞ 65、66 ページ）

＜端末型＞

静的IP マスカレード（ポートフォワーディング）

静的IP マスカレードのテーブル設定によって、インターネット上のアプリケーションから LAN 側の任意のパソコンを参照することができます。インターネットアプリケーションが使用するポート番号の TCP/UDP パケットを任意のパソコンのプライベート IP アドレスに割り当てます。静的IP マスカレードの機能を利用するには、インターネットアプリケーションが利用するポート番号を調べ転送対象ポート入力欄に入力し、転送先 IP アドレス入力欄に対応するパソコンの IP アドレスを入力してください。例えば、WWW サーバでホームページを公開する場合、WWW サービスポート番号（TCP プロトコル、ポート番号： 80）と WWW サーバのパソコンのプライベート IP アドレスを入力してください。

設定例：

プライベート IP アドレスが 192.168.0.2 のパソコンに WWW サーバを立ち上げてホームページを公開する場合、WWW サービスポート番号（TCP プロトコル、ポート番号： 80）と WWW サーバのパソコンのプライベート IP アドレス（192.168.0.2）を入力してください。
プライベート IP アドレスが 192.168.0.3 のパソコンにメールサーバを立ち上げる場合、メールサービスポート番号（TCP プロトコル、ポート番号： 25）とメールサーバのパソコンのプライベート IP アドレス（192.168.0.3）を入力してください。

	エントリ	プロトコル	転送対象ポート	転送先IPアドレス
1	有効	TCP	80	192.168.000.002
2	有効	TCP	25	192.168.000.003

安全のために外部から LAN 側を参照できないようにフィルタリングの設定がおこなわれています。サーバを外部から参照させるには、該当するポート番号を通過させるフィルタを追加するか、エントリ番号 60 の項目を許可にしてください。(☞ 65、66 ページ)

	エントリ	プロトコル	転送対象ポート	転送先IPアドレス
1	無効			
2	無効			
3	無効			
4	無効			
5	無効			
6	無効			
7	無効			
8	無効			
9	無効			
10	無効			
11	無効			
12	無効			
13	無効			
14	無効			
15	無効			
16	無効			

● エントリ	“有効”あるいは、“無効”を選んでください。“有効”を選んだ場合、エントリはテーブル（プロトコル、転送対象ポート、転送先IPアドレス）に設定したように機能します。“無効”を選んだ場合、他の項目を設定しても機能しませんが、“有効”を選び直すと機能するようになります。
● プロトコル	インターネットでデータを送受信する際に使うプロトコルを選んでください。TCP、UDP、TCP&UDP、ICMP、PPTPの中から選ぶことができます。
● 転送対象ポート	インターネットでデータを送受信する際に使うポートを指定してください。ポート番号は半角文字で入力し、スペースは入力しないでください。 ● ポートを1つだけ利用したいときは、そのポート番号を入力してください。 ● ポートの範囲を指定したい場合は、“－”を使って入力してください。例えば2000から3000までのポートを利用したい場合は、“2000－3000”と入力してください。小さいポート番号が左に、大きいポート番号が右になるように入力してください。
● 転送先IPアドレス	MN7500に接続されたパソコンのプライベートIPアドレスを設定してください。インターネットからのデータは、このIPアドレスに送られます。この場合、対応するパソコンのIPアドレスをこの値に固定してください（☞88ページ）。

このテーブルを設定すると、インターネットから転送対象ポートへ不正アクセスされる可能性があります。安全のために、必要な時にのみ設定してください。

フィルタリング設定

IP アドレス、ポート、プロトコルの条件を指定することで、受信した IP パケットを通過あるいは廃棄することができます。条件を適切に設定することでセキュリティ対策として使用することができます。

■ 新たにフィルタリングする項目を追加するには

1 MN7500 の Web 設定画面上の フィルタリング設定 をクリックする

フィルタリング設定

IPパケットのヘッダに含まれている情報(送信元IPアドレス、宛先IPアドレス、送信元ポート番号、宛先ポート番号、プロトコル)を元に、指定したルールに従ってパケットを通過／遮断します。最大64個まで登録できます。フィルタを登録すると、本製品が受信したパケット毎にフィルタと比較します。比較はフィルタNoの小さいフィルタから順に行われ、パケットは最初に該当したフィルタの条件に従って処理されます。該当するフィルタがないパケットは通過します。また、フィルタが登録されていない場合は、すべてのアクセスが許可されます。

設定されている条件

フィルタNoをクリックすると、各設定画面が開き、更新・削除ができます。
デフォルト設定の説明は、こちらを参照下さい。
″MN7500″はルータ自身、″*″は全てのアドレス/ポートが対象です。

No	タイプ	方向	送信元		宛先		プロトコル	ログ出力
			IPアドレス	ポート	IPアドレス	ポート		
1	禁止	W->L	*	*	MN7500	80	TCP	する
53	禁止	W->L	10.0.0.0 - 10.255.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
54	禁止	W->L	172.16.0.0 - 172.31.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
55	禁止	W->L	192.168.0.0 - 192.168.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
56	禁止	L->W	*	*	10.0.0.0 - 10.255.255.255	*	TCP&UDP	する
57	禁止	L->W	*	*	172.16.0.0 - 172.31.255.255	*	TCP&UDP	する
58	禁止	L->W	*	*	192.168.0.0 - 192.168.255.255	*	TCP&UDP	する
59	禁止	W->L	*	*	MN7500	*	TCPEST	する
60	禁止	W->L	*	*	*	*	TCPEST	する
61	禁止	W->L	*	*	*	137 - 139	TCP&UDP	する
62	禁止	W->L	*	137 - 139	*	*	TCP&UDP	する
63	禁止	L->W	*	*	*	137 - 139	TCP&UDP	する
64	禁止	L->W	*	137 - 139	*	*	TCP&UDP	する

エントリの移動: 番エントリを 番エントリへ移動する。
移動

設定を有効にする場合には保存後、再起動してください。

保存 エントリ追加 デフォルトに戻す 戻る

2 エントリ追加 をクリックする

3 必要項目を設定し、[追加] をクリックする

4 設定を終えたら、[保存] をクリックする

設定した内容が保存されます。
PPPoE 接続でインターネットに接続している場合は、ここで [PPPoE 接続] をクリックし、[切断] をクリックして再起動してください。

5 Web 設定画面に、[再起動] が表示されたら、それをクリックする

- フィルタリング設定は、設定を終えたら必ず [保存] をクリックしてください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。
- プロバイダからプライベート IP アドレスを割り当てられている場合は、エントリ番号 53-58 の項目を許可にしてください。(☞ 65、66 ページ)
- 安全のために外部から LAN 側を参照できないようにフィルタリングの設定がおこなわれています。サーバを外部から参照させるには、該当するポート番号を通過させるフィルタを追加するか、エントリ番号 60 の項目を許可にしてください。(☞ 65、66 ページ)
- インターネット側の FTP サーバにアクセスできない場合、インターネット側からホーム側へ TCP の 20 番ポートを通過するフィルタを追加するか、エントリ番号 60 の項目を許可にしてください。(☞ 65、66 ページ)

設定例：

Windows NT/2000 の LAN 機能への外部からのアクセスを防止する場合、

タイプ	方向	IP アドレス	ポート	IP アドレス	ポート	プロトコル	ログ
禁止	L -> W	＊	＊	＊	135	TCP&UDP	する
禁止	L -> W	＊	135	＊	＊	TCP&UDP	する
禁止	W -> L	＊	＊	＊	135	TCP&UDP	する
禁止	W -> L	＊	135	＊	＊	TCP&UDP	する
禁止	L -> W	＊	＊	＊	445	TCP&UDP	する
禁止	L -> W	＊	445	＊	＊	TCP&UDP	する
禁止	W -> L	＊	＊	＊	445	TCP&UDP	する
禁止	W -> L	＊	445	＊	＊	TCP&UDP	する

外部から WWW サーバを参照できるようにする

タイプ	方向	IP アドレス	ポート	IP アドレス	ポート	プロトコル	ログ
許可	W -> L	＊	＊	サーバのアドレス	80	TCP	する

● **No**	エントリ No を 1 ～ 64 の値で入力してください。エントリ No の小さい順にパケットフィルタリングの処理をおこないます。既に登録されている場合は、そのエントリに上書きされます。
● **タイプ**	許可（条件が一致すれば通す）か禁止（条件が一致すれば破棄する）を選んでください。
● **方向**	W → L（WAN からの受信時にフィルタリング）か L → W（WAN への送信時にフィルタリング） を選んでください。
● **送信元 IP アドレス**	フィルタリングするパケットの送信元 IP アドレスを設定してください。IP アドレスは半角文字で入力し、スペースは入力しないでください。 ● IP アドレスを 1 つだけ指定したい場合は、その IP アドレスを上の欄に入力してください。 ● IP アドレスの範囲を指定したい場合は、上の欄に小さい IP アドレスを入力し、下の欄に大きい IP アドレスを入力してください。例えば 192.168.0.3 から 192.168.0.10 までの IP アドレスを指定したい場合は、上の欄に 192.168.0.3 を入力し、下の欄に 192.168.0.10 を入力してください。 ● ＊を入力するとすべての IP アドレスが対象になります。
● **送信元ポート**	フィルタリングするパケットの送信元ポート番号を設定してください。ポート番号は半角文字で入力し、スペースは入力しないでください。 ● ポートを 1 つだけ指定したい場合は、上の欄にそのポート番号を入力してください。 ● ポートの範囲を指定したい場合は、上の欄に小さいポート番号を入力し、下の欄に大きいポート番号を入力してください。例えば 2000 から 3000 までのポートを指定したい場合は、上の欄に 2000 を入力し、下の欄に 3000 を入力してください。 ● ＊を入力するとすべてのポートが対象になります。
● **宛先 IP アドレス**	フィルタリングするパケットの宛先の IP アドレスを設定してください。入力の規則は送信元 IP アドレスと同じです。
● **宛先ポート**	フィルタリングするパケットの宛先のポート番号を設定してください。入力の規則は送信元ポートと同じです。
● **プロトコル**	データを送受信する祭のプロトコルを選んでください。TCP、UDP、TCP&UDP、TCPEST、TCPFIN の中から選んでください。
● **ログ出力**	パケット情報の記録を一時的に保存し、「フィルタリングログ画面」で表示する／しないを設定できます。

■ フィルタリングの項目を修正または削除するには

1 MN7500のWeb設定画面上の
[フィルタリング設定] をクリックする

2 フィルタリング設定の一覧から修正または削除する項目のNoをクリックする

3 設定項目を修正し、[更新] をクリックする
削除するには [削除] をクリックする

修正した内容を元の状態に戻すには、[取り消し] をクリックしてください。

4 設定を終えたら、[保存] をクリックする

設定した内容が保存されます。
PPPoE接続でインターネットに接続している場合は、ここで [PPPoE接続] をクリックし、[切断] をクリックして再起動してください。

5 Web設定画面に、[再起動] が表示されたら、それをクリックする

データ入力欄には、スペースを入れないでください。

■ フィルタリング項目のエントリNoを変更するには

エントリNoの小さい順からパケットフィルタリングの処理をおこないます。パケットフィルタリング項目のエントリNoを変更するには、移動する項目のエントリNoを左の入力欄に入力し、移動先のエントリNoを右の入力欄に入力してください。

■ フィルタリングの設定内容をデフォルト設定に戻すには

[デフォルトに戻す] をクリックし、[更新] をクリックしてください。

標準で設定されているフィルタリングの設定エントリ番号と設定内容は次のようになります。

エントリ番号	説明
1	インターネット側から MN7500 本体の Web 設定画面へのアクセスを禁止する。
53-55	インターネット側からの送信元 IP アドレスが不正なパケットを破棄する。（インターネット側からのパケットにもかかわらずプライベート IP アドレスを送信元にしているパケットを破棄する。）
56-58	送信先 IP アドレスが不正なパケットがインターネット側に出るのを防止する。（ホーム側からのパケットにもかかわらず、送信先のアドレスがプライベート IP アドレスのパケットを送信しない。）
59	インターネット側から MN7500 本体への不正なアクセスを防止する。インターネット側から送信されてくる TCP パケットのうち、MN7500 との通信が確立していないものは破棄する。
60	インターネット側からホーム側への不正なアクセスを防止する。インターネット側から送信されてくる TCP パケットのうち、ホーム側のホストとの通信が確立していないものは破棄する。
61-64	ホーム側へ NBT パケットが通過できる状態では、Windows のリソース共有が不正に操作される可能性があり、インターネット側への NBT パケットはネットワークの情報を漏洩してしまうので破棄する。（NBT パケットの侵入と漏洩を防止する。）

オプション設定

オプション設定画面では、ホームネットワークの設定やインターネットにアクセスするための詳細な設定をおこないます。通常は、基本設定を正しくおこなえば MN7500 を使用することができます。オプション設定は、特に変更が必要な場合のみおこなってください。オプション設定を変更するには、次の手順にしたがってください。

1 MN7500 の Web 設定画面上の **オプション設定** をクリックする

それぞれの入力欄については、次ページを参照してください。

オプション設定

IPアドレス(ホーム側) DHCPサーバ	PPPoE	DNSリレー	MTUサイズ	ダイナミックルーティング

ルータのホーム側のIPアドレスとDHCPサーバで使用するIPアドレスの設定を行います。
DHCPサーバ機能を使用することにより、ホーム側ネットワークに接続されている機器にIPアドレスを自動的に割当てます。さらに、DHCPスタティック機能により、ホーム側ネットワーク機器のMACアドレスを登録し、IPアドレスと関連付けることにより、必ず固定のIPアドレスを割当てることができます。

- IPアドレス(ホーム側)設定

IP アドレス 192.168.0.1
ネットマスク 255.255.255.0

- DHCP設定

DHCP サーバ ◉使用する ○使用しない
利用可能なアドレス範囲 192.168.0.2 − 192.168.0.33
注：最大32個です。

- DHCPスタティック設定

2 画面の上にある設定項目を選ぶ

3 データ入力欄に設定値を入力する

元の設定に戻すには、**取り消し** をクリックする

4 設定を終えたら、**保存** をクリックする

設定した内容が保存されます。
PPPoE 接続でインターネットに接続している場合は、ここで **PPPoE 接続** をクリックし、**切断** をクリックして再起動してください。

5 Web 設定画面に **再起動** が表示されたら、それをクリックする

- オプション設定を変更した場合、ホームネットワークに接続しているパソコンの設定もおこない、パソコンを再起動してください。
- データ入力欄には、スペースを入れないでください。

機能

データ入力欄について

＜IP アドレス(ホーム側)設定＞

• IPアドレス(ホーム側)設定

IP アドレス 192.168.0.1

ネットマスク 255.255.255.0

● IP アドレス	MN7500 の IP アドレスを入力できます。標準設定は、**192.168.0.1** です。IP アドレスは、**利用可能なアドレス範囲**(下の＜ DHCP 設定＞の表を参照ください。）外で設定してください。
● ネットマスク	MN7500 のホーム側ネットワークのネットマスクを入力してください。

＜ DHCP 設定＞

• DHCP設定

DHCP サーバ ◉ 使用する ○ 使用しない

利用可能なアドレス範囲 192.168.0.2 － 192.168.0.33

注：最大32個です。

本製品の DHCP サーバ機能を使用することにより、ホーム側ネットワークに接続されている機器に IP アドレスを自動的に割り当てます。さらに、DHCP スタティック機能を使って、パソコンに装着しているネットワークカードの MAC アドレスを登録し、IP アドレスを設定すると、該当するパソコンの IP アドレスを設定したアドレスに固定することができます。

● DHCP サーバ	ホーム側ネットワークに接続されている機器に IP アドレスを自動的に割り当てます。MN7500 の標準の設定は、“ 使用する ” になっています。ホーム側ネットワークに接続されている機器に手動で IP アドレス等を設定する場合は、**使用しない**のオプションボタンを選んでください。DHCP サーバの設定を変更した場合は、それぞれのパソコンの IP アドレスの設定を変更してください。
● 利用可能なアドレス範囲	MN7500 の DHCP サーバ機能を利用する際は、データ入力欄にプライベート IP アドレスの範囲を入力してください。入力範囲は連続した最大 32 個の値です。特に必要ない限りは変更しないでください。

＜DHCP スタティック設定＞

DHCP サーバ機能を使う時、パソコンに装着しているネットワークカードの MAC アドレスを登録することにより、パソコンに割り当てる IP アドレスを固定することができます。

- **DHCPスタティック設定**

注：有効/無効

IPアドレスはDHCPサーバが配布するアドレス範囲内のみ設定可能です。
MACアドレスの入力可能文字は半角数字と"A"～"F"もしくは"a"～"f"です。2文字ずつ":"で区切って"01:23:45:ab:cd:ef"のように入力してください。
"有効"を設定すると指定されたエントリが使用中となります。"無効"と設定するとそのエントリは機能しませんが、次に必要となった時の設定を容易にするため、1度設定した設定内容は削除されずに残されます。

	エントリ	IPアドレス（ホーム側）	MACアドレス		エントリ	IPアドレス（ホーム側）	MACアドレス
1	無効			17	無効		
2	無効			18	無効		
3	無効			19	無効		
4	無効			20	無効		
5	無効			21	無効		
6	無効			22	無効		
7	無効			23	無効		
8	無効			24	無効		
9	無効			25	無効		
10	無効			26	無効		
11	無効			27	無効		
12	無効			28	無効		
13	無効			29	無効		
14	無効			30	無効		
15	無効			31	無効		
16	無効			32	無効		

保存　取り消し

項目	説明
● **エントリ**	"有効"あるいは"無効"を選んでください。"有効"を選んだ場合、エントリはテーブルで設定した MAC アドレスを持つパソコンをテーブルで設定した IP アドレスに固定します。"無効"を選んだ場合、他の項目を設定しても機能しませんが、"有効"を選び直すと機能するようになります。
● **IP アドレス（ホーム側）**	該当するパソコンの固定したい IP アドレスを入力してください。
● **MAC アドレス**	該当するパソコンのネットワークカードの MAC アドレス（☞ 98 ページ）を入力してください。必ず半角数字と半角英字の"A"～"F"か"a"～"f"を 2 文字ずつ半角の":"で区切って"01:23:45:ab:cd:ef"のように入力してください。

＜ PPPoE 設定＞

PPPoE を利用してプロバイダと接続する場合、PPPoE 接続を開始または停止することができます。**接続形態**から接続方法を選んでください。プロバイダとの契約でインターネットアクセスの利用料金が従量制の場合は、**自動接続**あるいは、**手動接続**を選んでください。

• PPPoE設定

接続形態　◉ 常時接続 ○ 自動接続 ○ 手動接続

不使用時の切断　◉ 切断する(30 分後) ○ 切断しない

注：この"不使用時の切断"のためのタイマは接続形態の設定が"自動接続"または"手動接続"の時のみ有効です。

● **常時接続**	MN7500 の電源が入っている間は常に接続されます。これが標準設定となっています。PPPoE 接続画面から切断ができます（☞ 77 ページ）。再接続するには MN7500 を再起動します。
● **自動接続**	MN7500 がインターネットにアクセスをおこなおうとする時に接続されます。PPPoE 接続画面から接続および切断ができます。詳細は、77 ページを参照してください。
● **手動接続**	PPPoE は、PPPoE 接続画面で [接続] を選んだ場合にのみ接続されます（☞77 ページ）。PPPoE の接続を切断するには、PPPoE 接続画面上で [切断] をクリックしてください（☞ 77 ページ）。
● **不使用時の切断**	**切断する**を選んでいる場合、インターネットにアクセスしていないことを感知して、あらかじめ設定された時間をすぎると自動的に PPPoE の接続を切断します。この機能を利用するには、**切断する**を選び、時間（1 から 99 分）を設定してください。 **常時接続**が選ばれている場合、この機能は無効になります。

＜ DNS リレー＞

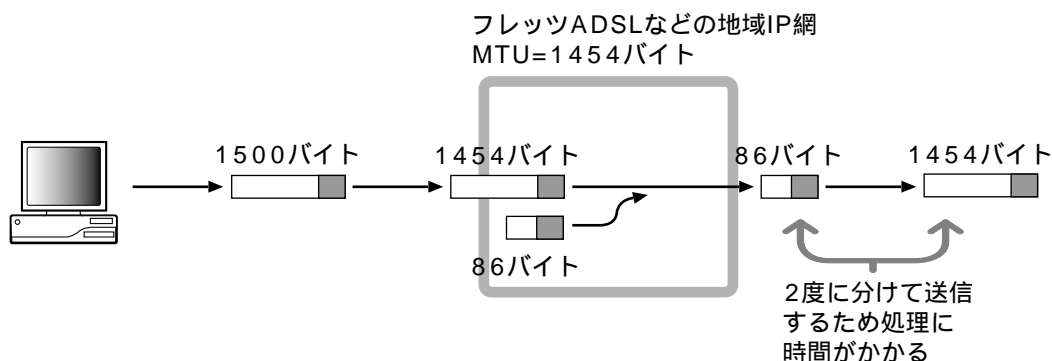
LAN 側に接続しているパソコンの IP アドレスを固定している場合などは、インターネットに接続するために、パソコンに DNS サーバの IP アドレスを入力する必要があります。DNS リレーはこの面倒な入力作業を省略します。DNS リレーにより MN7500 は、ホームネットワーク上のパソコンに対して自身を DNS サーバとして通知します。ホームネットワーク側からの DNS の問い合わせに対しては、MN7500 がインターネット上の指定の DNS サーバに代理で問い合わせをします。そして、問い合わせで得た回答をホームネットワークのパソコンに返します。

ホームネットワーク上に DNS サーバを接続している場合は、DNS リレーを使用しないでください。

● **使用する**	MN7500 が自身を DNS サーバのアドレスとしてパソコンに通知します。MN7500 の標準設定は " 使用する " になっています。
● **使用しない**	DNS リレー機能が働きません。 パソコンの IP アドレスを固定している場合は、パソコンに DNS サーバの IP アドレスを入力してください。

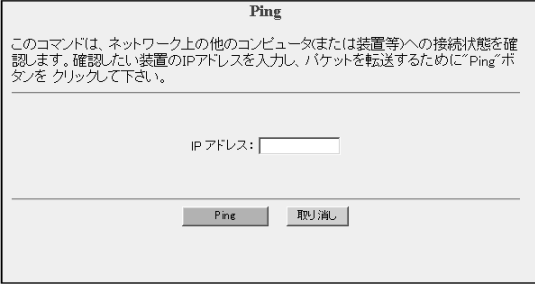
アドレス変換を使用しないで DNS リレー機能を使用する場合は、DNS サーバの IP アドレスを MN7500 のアドレスになるようにホームネットワーク側のパソコンを設定してください。

＜MTU サイズ＞

MTU とは、送信できるパケットの最大長を言います。MTU の値が大きければ、１回に転送できる転送量が大きくなります。しかし、MTU の値が大きすぎるとフレッツ・ ADSL などの地域 IP 網を通過する時に、地域 IP 網の MTU 値を越えるためにパケットを 2 回に分けて送信することになります。その結果転送速度が低下します。

通常は MN7500 が最適な MTU 値になるように自動調整します。特に変更が必要な場合のみ MTU 値を変更してください。

MTU の設定によっては、通信速度が極端に低下する場合があります。個人の責任で設定してください。

＜ダイナミックルーティング＞

RIP（IP の経路制御パケット）をインターネット→ホーム側に送信する/しないと、ホーム→インターネット側に送信する/しないを設定します。

● ホーム側	通常は “ 送信する ” に設定してください。ホームネットワーク上にインターネットに接続しているルータが複数台あり、他のルータから LAN 側に RIP が送信されていない場合は、パソコンからインターネットへの送信がすべて本製品を経由していくことになります。その場合は “ 送信しない ” に設定してください。
● インターネット側	IP の経路制御パケットをインターネット側に送信すると、ホーム側のネットワーク情報が外部から見えることになります。セキュリティを確保するために通常は “ 送信しない ” でください。イントラネット下に MN7500 を接続するなどの場合は、必要に応じて “ 送信する ” に設定してください。

Ping

インターネット上、あるいは、ホームネットワーク上のサイトや機器が、TCP/IP ネットワークで MN7500 と接続されているかどうか、確認することができます。正しく接続されている場合は、“成功! ”のメッセージが画面に表示されます。

1 MN7500 の Web 設定画面上の [Ping] をクリックする

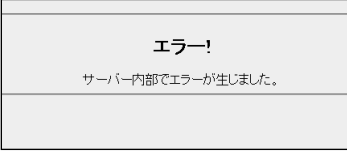
右の画面を表示します。

Ping

このコマンドは、ネットワーク上の他のコンピュータ(または装置等)への接続状態を確認します。確認したい装置のIPアドレスを入力し、パケットを転送するために"Ping"ボタンを クリックして下さい。

IP アドレス:

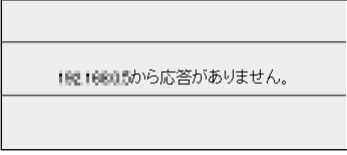
Ping　取り消し

2 接続されていることを確認したい機器やサイトの IP アドレス（例： 192.168.0.2）を入力する

IP アドレス欄を空白に戻すには、[取り消し] をクリックする

3 [Ping] をクリックする

- 接続されていたら、右の画面を表示します。

成功！

Reply from 192.168.0.254: icmp_seq=3 bytes=32 TTL=64

- 無効な IP アドレスが入力されていると、右の画面を表示します。

エラー!

サーバー内部でエラーが生じました。

- 指定 IP アドレスからの応答がない場合は、右の画面を表示します。

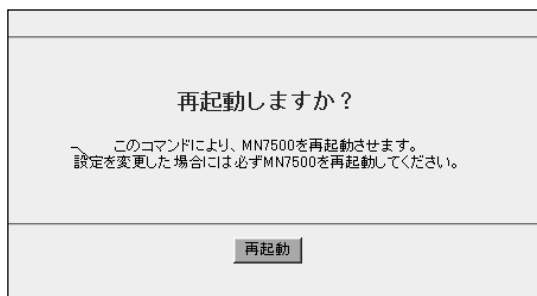
から応答がありません。

再起動

MN7500を再起動します。この時、MN7500の設定内容は保存されています。

PPPoE接続でインターネットに接続している時に、MN7500を再起動する場合は、インターネットとの接続を切断（☞ 77ページ）してから再起動してください。切断せずに再起動すると、5～20分インターネットに接続できなくなります。

1 MN7500のWeb設定画面上の **再起動** をクリックする

右の画面を表示します。

2 **再起動** をクリックする

MN7500が再起動されます。

MN7500のDHCPサーバ機能（☞ 68ページ）を使っているときは、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンも再起動してください。

初期化

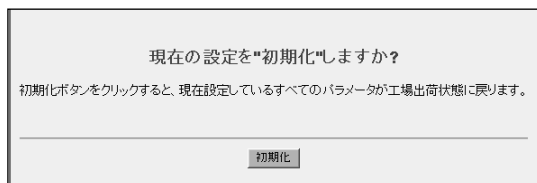
MN7500の全ての設定値を初期化します。設定値は、工場出荷時に設定されていた内容（標準設定値 ☞ 109ページ）に戻ります。

1 MN7500のWeb設定画面上の **初期化** をクリックする

右の画面を表示します。

現在の設定を"初期化"しますか？

初期化ボタンをクリックすると、現在設定しているすべてのパラメータが工場出荷状態に戻ります。

初期化

2 **初期化** をクリックする

MN7500の全ての設定値が初期化されます。

MN7500のDHCPサーバ機能（☞ 68ページ）を使っているときは、ホームネットワークに接続しているパソコンも再起動してください。

パスワード変更

MN7500のパスワード（☞ 33ページ）を変更することができます。

1 MN7500のWeb設定画面上の［パスワード変更］をクリックする

右の画面を表示します。

2 **新しいユーザID**入力欄に新しいユーザ名（15桁までの半角英数字）を入力する

3 **新しいパスワード**入力欄に新しいパスワード（15桁までの半角英数字）を入力し、確認のため、**新しいパスワードの再入力**欄に再度新しいパスワードを入力する

4 ［保存］をクリックする

- パスワードの変更が終了したら、右の画面を表示します。

成功！
パスワードが変更されました。

- パスワードの変更がまちがっていると、右の画面を表示します。

エラー!
再入力されたパスワードが違います。パスワードは変更されません。

5 **ユーザ名・ID**と**パスワード**のダイアログボックスが表示されたら、**ユーザ名・ID**と**パスワード**欄に新しいユーザ名とパスワードを入力し、［OK］をクリックする

(Windows)

(Macintosh)

- **新しいパスワードの再入力**欄に入力する際は、コピー・貼り付け機能を使わないでください。
- 大文字、小文字を区別してユーザ名・IDとパスワードを入力してください。

変更したユーザ名・IDとパスワードを忘れてしまった場合
標準のユーザ名・IDとパスワードに戻すため、CLEAR SETTINGボタンを押してMN7500の初期化をおこなってください。（☞ 80ページ）

ファームウェアの更新

MN7500に新しいファームウェアをインストールすることができます。MN7500の最新ファームウェアは、NTT-ME MN7500のホームページ (http://www.ntt-me.co.jp/mn) から入手することができます。また、回線が接続されている状態で、Web設定画面の「ここから最新のファームウェアをダウンロードすることができます。」をクリックすると、上記ホームページに接続されます。

ファームウェアの更新機能を使うまえに、パソコンにファームウェアをダウンロードしてください。詳細は、ホームページの説明、あるいは、ファームウェアの説明書をお読みください。

1 MN7500のWeb設定画面上の ファームウェアの更新 をクリックする

右の画面を表示します。

2 ファームウェアファイルを選ぶために、参照... をクリックする

ファイルの選択（Windows）または、**開く**（Macintosh）ダイアログボックスを表示します。

(Windows)

(Macintosh)

3 ファイルの一覧からインストールしたいファームウェアファイルを選び、開く をクリックする

4 選んだファイルがファームウェアの更新Web設定画面の**ファイル名**欄に表示されます。

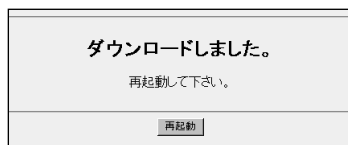
機能

5 開始 をクリックする

- ファームウェアの更新が終了すると、数秒後に、右の画面を表示します。

ダウンロードしました。

再起動して下さい。

再起動

- ファームウェアが更新されなかった時は、エラーメッセージを表示します。（☞ 下記）

6 再起動 をクリックする

MN7500 が再起動されます。

MN7500 の DHCP サーバ機能（☞ 68 ページ）を使っているときは、ホームネットワークに接続しているすべてのパソコンを再起動してください。

エラーメッセージ

エラーメッセージ	原因と対策
● ファイル・サイズが不適当です。 ● CRC エラーが生じました。	選択したファームウェアのファイルは壊れています。http://www.ntt-me.co.jp/mn からダウンロードして入手したファームウェアファイルの場合、再度、ダウンロードしてください。
● ファイルが ELF フォーマットではありません。	ファームウェアは、MN7500 には使えません。適切なファイルを選んでください。
● 選択したファイルは、正しいファイルではありません。	ファームウェアは、MN7500 には使えません。適切なファイルを選んでください。 ファイルに添付されている説明書（Readme.txt 等）をお読みになり、MN7500 のハードウェアバージョンに合っているか確認してください（☞ 78 ページ）。 合っていないときは、ハードウェアバージョンに合う最新版のファームウェアを http://www.ntt-me.co.jp/mn より入手してください。
● メモリが足りません。	MN7500 の内蔵メモリが処理負荷のため少なくなっています。MN7500 を再起動してください。

PPPoE 接続

PPPoE の接続コマンドによって、MN7500 のプロバイダへの PPPoE 接続を手動で切断または接続することができます。PPPoE の接続状態によって、2 種類の Web 設定画面が表示されます。Web 設定画面上のボタンをクリックすると、PPPoE の接続を切断または接続することができます。

■ PPPoE 接続がされている場合

右の画面を表示します。

1 PPPoE 接続を切断するには、[切断] をクリックする

■ PPPoE 接続がされていない場合

このコマンドは、MN7500 の PPPoE の接続が自動接続または手動接続の場合のみ使用できます。

右の画面を表示します。

1 PPPoE 接続を開始するには、[接続] をクリックする

セッション・キープ・アライブ機能について

PPPoE 接続の常時接続モードの場合に、プロバイダのサーバとの接続が何らかの理由で切断した時は、自動的に接続を試みる機能です。

本製品のセッション・キープ・アライブ機能は次の特徴を持っています。

- 常時接続モード時に有効になっています。自動接続モード時や手動接続モード時は、自動的に接続しません。
- 再接続をおこなうタイミングは、1 分後、2 分後、3 分後と 1 分ずつ増えていき、それ以降は 10 分間隔で接続を試みます。
- プロバイダのサーバとの切断の監視は、正常に接続されたかどうかのチェックと 30 秒毎に信号をプロバイダに送り、応答の有無により切断を判断する LCP エコーチェック機能でおこないます。

ステータス

MN7500のシリアルナンバー、ハードウェアとソフトウェアのバージョン情報等を見ることができます。この情報は、技術サポートセンターに連絡する時、役にたちます。

1 Web設定画面上の [ステータス] をクリックする

右の画面を表示します。

ステータス

ここでは、ハードウェアとファームウェアおよびネットワーク接続情報を表示します。また、ファームウェアを更新する前に、現在のファームウェア・バージョンを確認することができます。

Serial No:	0
CPU Card-ID:	3
Interface Card-ID:	14
PC Card-ID:	0
ROM Version:	1
ROM Level:	3
Firmware #2:	Ver1.30 Created at "Oct 2 20:46:22 JST 2000" Target config file Ver1.03
Config File:	Ver1.03

使用状況

MN7500のデータの送受信の状態を見ることができます。この情報は、技術サポートセンターに連絡する時、役にたちます。

1 Web設定画面上の [使用状況] をクリックする

右の画面を表示します。

フィルタリングログ

パケットフィルタリングの画面で「ログ出力」にチェックをつけたエントリがパケットの処理をおこなうとパケットの情報を記録します。パケット情報は、エントリ番号、タイプ、方向、送信元／宛先ポート番号などで、最新の情報（4000個まで）を見ることができます。

1 Web設定画面上の [フィルタリングログ] をクリックする

ヘルプ

ヘルプ機能は、MN7500 の Web 設定画面の各項目を説明しています。

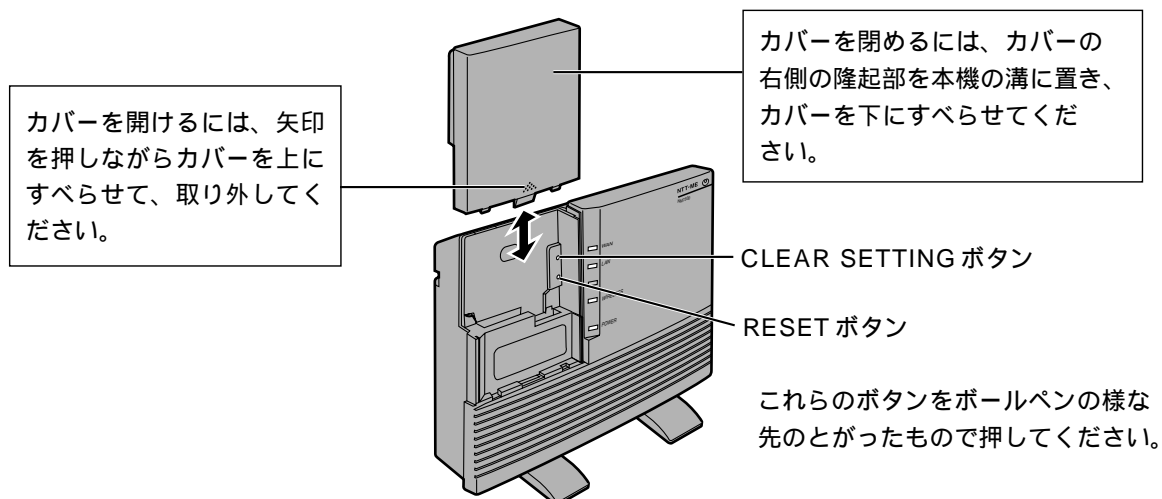
1 MN7500 の Web 設定画面上の [ヘルプ] をクリックする

右の画面を表示します。

2 調べたい項目を選ぶ

機能

MN7500の再起動

MN7500には、カバーの内側に2つのボタンがあります。これらのボタンはMN7500を初期化する時、あるいは、再起動する時に使われます。

MN7500の初期化

MN7500のパスワード（☞ 33ページ）を忘れたり、設定値を工場出荷時の状態（標準設定値）に戻す時は、CLEAR SETTINGボタンを押してください。

- CLEAR SETTINGボタンを押すと、設定した内容は消去され標準設定値になります。
- MN7500のDHCPサーバ機能（☞ 68ページ）を使う時は、ホームネットワークのパソコンを再起動してください。

MN7500の再起動

万一、MN7500のPOWERインジケーターが赤く点滅したり点灯したら（☞ 12ページ)、RESETボタンを押してください。
MN7500の設定内容を変更することなく再起動することができます。

- PPPoE接続でインターネットに接続している時に、MN7500を再起動する場合は、インターネットとの接続を切断（☞ 77ページ）してから再起動してください。切断せずに再起動すると、5～20分インターネットに接続できなくなります。
- MN7500のDHCPサーバ機能（☞ 68ページ）を使う時は、ホームネットワークのパソコンを再起動してください。

プロキシサーバー使用時の WWW ブラウザの設定

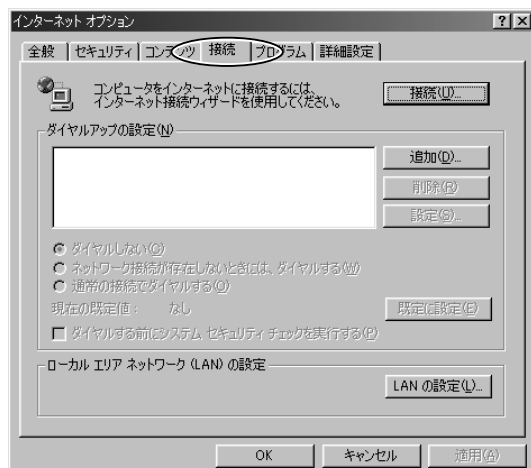
プロバイダの中には、プロキシサーバーを経由して WWW サイトに接続をおこなう所があります。MN7500 の Web 設定画面は、プロキシサーバーを経由してアクセスすることはできません。次の手順にしたがって WWW ブラウザの設定を変更してください。

Windows の場合

次の手順は、Internet Explorer 5.5 を使った場合です。

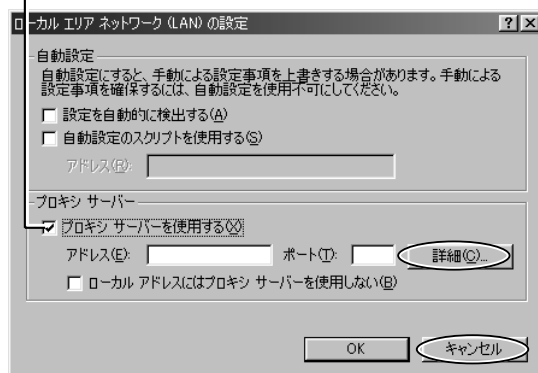
1 WWW ブラウザを起動する

2 **ツール**メニューから **インターネットオプション**を選ぶ

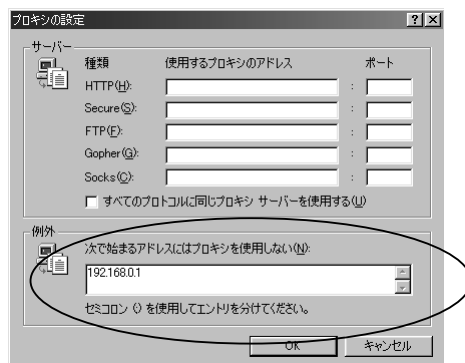
3 **接続**タブをクリックする

4 ［LANの設定］をクリックする

5 **ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定**ダイアログボックスで、**「プロキシサーバーを使用する」**のチェックボックスがチェックされているかどうかを確認する

- **チェックボックスがチェックされていたら、**［詳細］をクリックし手順 6 に進む
- **チェックボックスがチェックされていなかったら、**設定をしないで［キャンセル］をクリックし設定を終了する

チェックボックスがチェックされているか確認してください。

機能 その他

6 **192.168.0.1**（MN7500 の標準 IP アドレス）を**次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない:**の入力欄に入力する

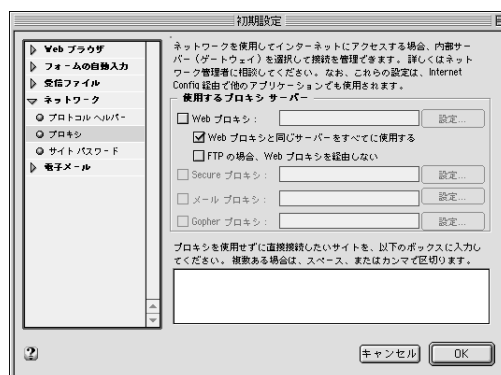
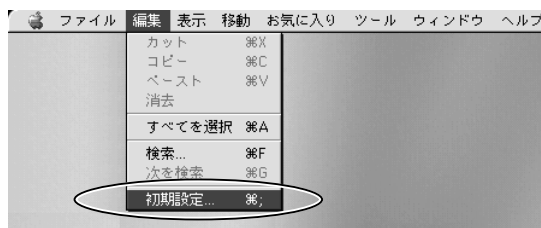
MN7500 の IP アドレスを変更した場合は、**次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない:**の入力欄に変更後の IP アドレスを入力する

7 OK をクリックする

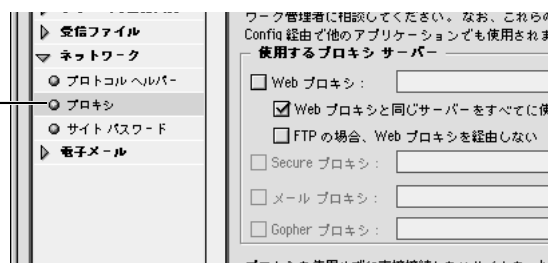
Macintosh の場合

次の手順は、Internet Explorer 5.01 を使った場合です。

1 WWW ブラウザを起動する

2 **編集**メニューから**初期設定**を選ぶ

初期設定ダイアログボックスを表示します。

3 リストから**プロキシ**を選ぶ

プロキシを選んでください。

4 **「Web プロキシ」**チェックボックスがチェックされているか確認する

チェックボックスがチェックされているか確認してください。

- **チェックボックスがチェックされていたら、**ダイアログボックスの一番下にある入力欄に 192.168.0.1（MN7500 の標準 IP アドレス）を入力する
  MN7500 の IP アドレスを変更した場合は、ダイアログボックスの一番下にある入力欄に変更後の IP アドレスを入力する
- **チェックボックスがチェックされていなかったら、**設定しないで **キャンセル** をクリックし設定を終了する

5 **OK** をクリックする

その他

無線ネットワークのセキュリティについて

無線ネットワークでは次の 3 つの手段を使ってセキュリティを守ることができます。構築するネットワークの使用目的に合わせてそれぞれを組み合わせ、より高いセキュリティを確保してください。

SSID (☞ 49 ページ)	無線ネットワークでは、ネットワークに名前をつけます。この名前を SSID（ESSID）と呼びます。SSID は無線ネットワークに接続する各機器に設定し、同じ SSID を持つ機器同士でのみ通信ができます。異なった SSID の機器は接続できなくなっており、セキュリティを確保します。 メリット：　比較的簡単に設定をおこなうことができます。 デメリット：SSID を盗まれるとネットワークに侵入されます。また、SSID には名前や誕生日などを使わないでください。多くの人が使っている名前や推察されやすい名前を使うと、隣接する無線ネットワークと混信したり、ネットワークに侵入される場合があります。
MAC アドレスフィルタリング登録 (☞ 53 ページ)	MN7500 にあらかじめ接続可能な無線 LAN カードの MAC アドレスを登録しておけば、未登録の無線 LAN カードの接続を拒否します。 メリット：　SSID や暗号化キーを盗まれても接続を拒否できます。 デメリット：無線ネットワークの規模が大きくなると、MAC アドレスの登録に時間がかかる場合があります。
WEP 暗号化設定 (☞ 51 ページ)	無線ネットワーク内で通信するデータを暗号化することができます。暗号化をおこなうと、万一無線ネットワークのデータを他人に読まれても解読することが困難になります。暗号化は無線ネットワークの全てのパソコンが同じ暗号化キーを登録しておこないます。暗号化キーは 40bit と 128bit の 2 種類あります。 メリット：　暗号化なし→ 40bit 暗号化→ 128bit 暗号化の順で安全性が高まります。 デメリット：暗号化なし→ 40bit 暗号化→ 128bit 暗号化の順で通信速度が若干低下します。

LAN 型接続について

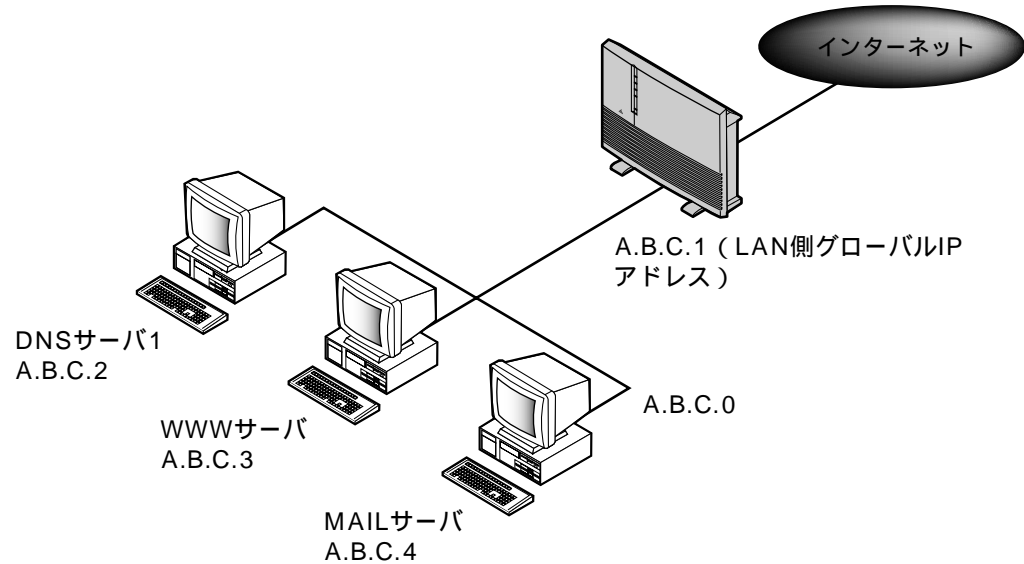
プロバイダからグローバル IP アドレスを複数個提供されていて LAN 型接続でインターネットに接続する場合、LAN 側のパソコンの IP アドレスの割り当てには、次の 2 種類の方法があります。

- LAN 側のパソコンにグローバル IP アドレスを直接割り当てる（MN7500 を IP ルータとして利用する）
- LAN 側のパソコンにはプライベート IP アドレスを割り当て、グローバル IP アドレスと NAT 変換する（NAT ルータとして利用する）

LAN 側のパソコンにグローバル IP アドレスを直接割り当てる場合

すでにグローバル IP アドレスで LAN を構築している場合や LAN に接続するパソコンの台数分グローバル IP アドレスを取得しているなどの場合は、LAN 側のパソコンにグローバル IP アドレスを直接割り当ててご使用になれます。

- セキュリティ確保のために MN7500 と LAN の間にファイアウォールを設置することをおすすめします。
- MN7500 のパケットフィルタリングの設定を適切におこなってください。

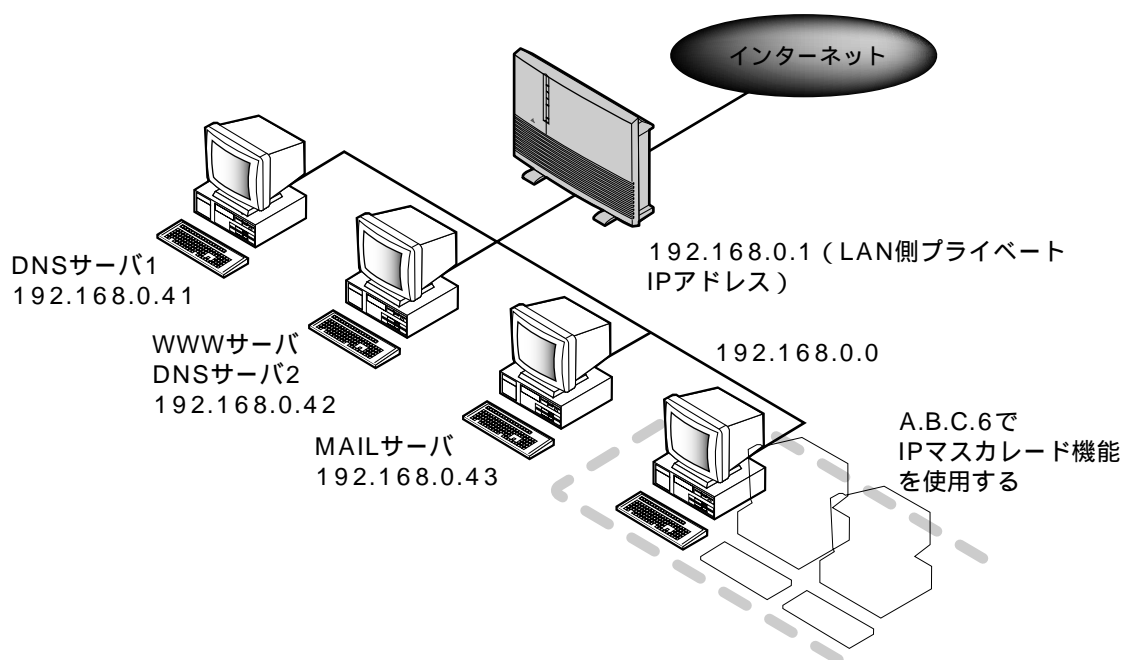
A.B.C.0/29（A.B.C.0 〜 A.B.C.7）のグローバル IP アドレスを取得している場合

	PPPoE (LAN 型)
WAN 側 IP アドレス	
LAN 側 IP アドレス	A.B.C.1
MN7500 の IP アドレス	A.B.C.1
ネットワークアドレス	A.B.C.0
パソコン	A.B.C.2 〜 A.B.C.6
ブロードキャストアドレス	A.B.C.7

その他

MN7500 の設定項目	内容
基本設定 **ルータ本体の IP アドレス** **アドレス変換** **オプション設定** **IP アドレス（ホーム側）設定** **DHCP 設定**	 A.B.C.1 使用しない A.B.C.1 任意（ホームネットワーク内に WWW サーバ等を立ち上げて公開する場合は、該当のサーバの IP アドレスを手動で設定するか、DHCP 設定で " 使用する " にして DHCP スタティック設定でサーバの IP アドレスを固定してください。）

LAN 側のパソコンにプライベート IP アドレスを割り当てる場合

すでにプライベート IP アドレスで LAN を構築している場合や LAN に接続するパソコンの台数分グローバル IP アドレスを取得していないなどの場合は、LAN 側のパソコンにプライベート IP アドレスを割り当ててご使用になれます。

A.B.C.0/29（A.B.C.0 ～ A.B.C.7）のグローバル IP アドレスを取得している場合

	PPPoE (LAN型)
WAN側IPアドレス	
LAN側IPアドレス	192.168.0.1
MN7500のIPアドレス	A.B.C.1
ネットワークアドレス	192.168.0.0
パソコン	A.B.C.2 → 192.168.0.41 A.B.C.3 → 192.168.0.42 A.B.C.4 → 192.168.0.43 A.B.C.5 → 192.168.0.44 A.B.C.6 → IPマスカレード機能を使ってパソコンを接続する
ブロードキャストアドレス	A.B.C.7

MN7500の設定項目	内容
基本設定 **ルータ本体のIPアドレス** **アドレス変換** **LAN型** **オプション設定** **IPアドレス（ホーム側）設定** **DHCP設定**	 A.B.C.1 使用する ネットワーク環境に応じてグローバルIPアドレスとプライベートIPアドレスの相互変換の設定をおこなってください。 192.168.0.1 任意（ホームネットワーク内にWWWサーバ等を立ち上げて公開する場合は、該当のサーバのIPアドレスを手動で設定するか、DHCP設定で“使用する”にしてDHCPスタティック設定でサーバのIPアドレスを固定してください。）

MN7500の設定例（アドレス変換→LAN型）

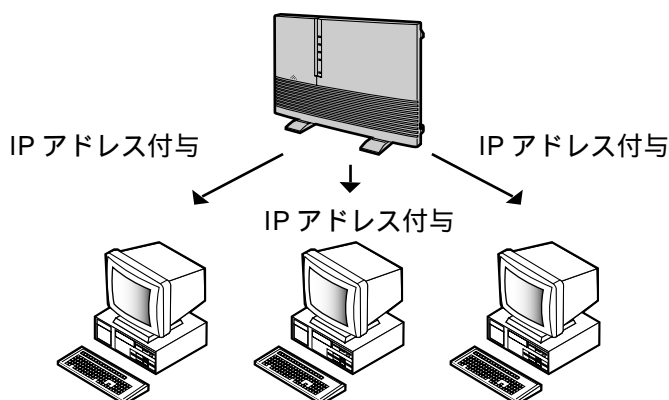
機能	エントリ	インターネット側IPアドレス	転送対象プロトコル	転送対象ポート	ホーム側IPアドレス
	有効	A.B.C.2	*	*	192.168.0.41
	有効	A.B.C.3	*	*	192.168.0.42
	有効	A.B.C.4	*	*	192.168.0.43
	有効	A.B.C.5	*	*	192.168.0.44

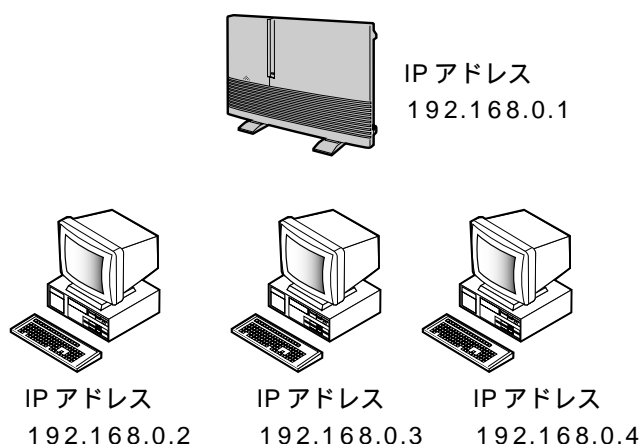
IPマスカレード	A.B.C.6	−	−	（注）

その他

ホームネットワークでIPアドレスを固定してネットワークを設定するには

MN7500を含めたTCP/IPネットワークの全てのパソコンには、各々別々のIPアドレスの設定が必要です。MN7500では、DHCPサーバ機能を使って、ホームネットワーク上の各パソコンにIPアドレスを自動で割り当てることができます（標準設定)。この場合、MN7500が各パソコンにIPアドレスを割り当てたり再割り当てするため、各パソコンのIPアドレスが固定していません。

MN7500がIPアドレスを割り当るネットワーク（標準設定）

これに対し、MN7500のDHCPサーバ機能を無効※にして、ホームネットワーク上の各パソコンのIPアドレスを固定することもできます。
この場合、あらかじめ各々のパソコンに固有のIPアドレスを設定します。

IPアドレスが固定されたネットワーク（オプション設定）

パソコンに固有のIPアドレスを設定した後に、MN7500を設定します。68ページを参照し、オプション設定画面上のDHCPサーバ機能を無効にしてください。各パソコンの設定は、89、91、93、95、96ページの手順にしたがってください。

※本製品のDHCPスタティック機能を使うことで、DHCPサーバ機能を無効にすることなくパソコンのIPアドレスを固定することができます。

Windows 95/98/Me の場合

1 パソコンの電源を入れる

2 ［**スタート**］メニューから **設定** を選び、**コントロールパネル** をクリックする

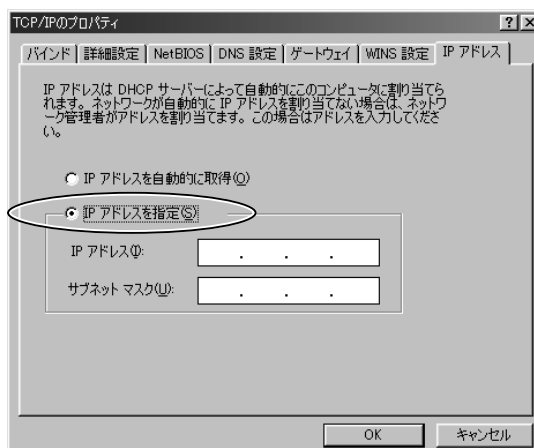
3 **「ネットワーク」** アイコンをダブルクリックする

Windows Me を使っていて **「ネットワーク」** アイコンが見つからない場合は、**「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」** をクリックしてください。

4 **ネットワーク**ダイアログボックスで、ネットワークカードに関連した TCP/IP を選び、 **プロパティ** をクリックする

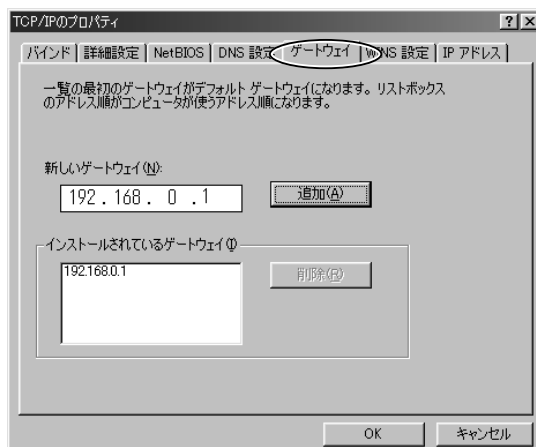
TCP/IP のプロパティ ダイアログボックスを表示します。

5 **TCP/IP のプロパティ** ダイアログボックスで、**IP アドレス**タブをクリックする

6 **「IP アドレスを指定」** を選ぶ

7 各パソコンの IP アドレス（例： 192.168.0.50）とサブネットマスクを適切な入力欄に入力する

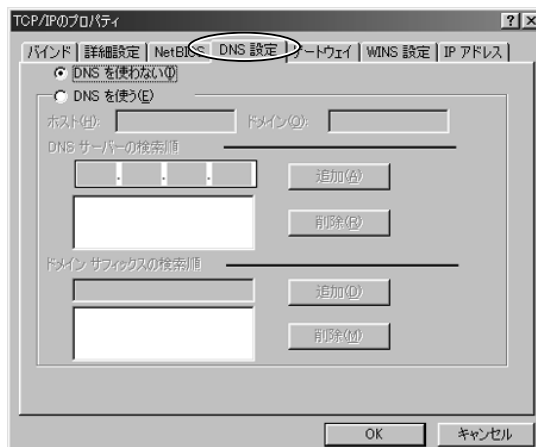
サブネットマスクは通常 255.255.255.0 と入力します。MN7500 の Web 設定画面にアクセスする場合は、MN7500 のサブネットマスクの値と同じ値をサブネットマスクの入力欄に入力してください。

8 **ゲートウェイ** タブをクリックする

右の画面を表示します。

9 **192.168.0.1**（MN7500の標準IPアドレス）を**「新しいゲートウェイ」**のアドレス欄に入力し、追加 をクリックする

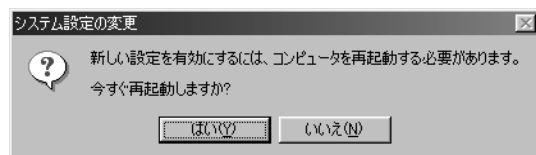
10 **192.168.0.1** が**「インストールされているゲートウェイ」**のアドレス欄に入力されていることを確認し、OK をクリックする

MN7500のIPアドレスを変更する場合は、**「インストールされているゲートウェイ」**のアドレス欄にあるIPアドレスも変更する

11 **DNS設定**タブをクリックする

12 **「DNSを使う」**を選ぶ

13 DNSサーバーアドレスを**「DNSサーバーの検索順」**のアドレス欄に入力し、追加 をクリックする

14 OK をクリックする

システム設定の変更 ダイアログボックスを表示します。

15 はい をクリックし、パソコンを再起動する

Windows 2000 の場合

1 パソコンの電源を入れる

2 **「マイネットワーク」**アイコンをダブルクリックし、**「ネットワークとダイヤルアップ接続」**をクリックする

3 MN7500 が接続されている**「ローカルエリア接続」**アイコンをダブルクリックする

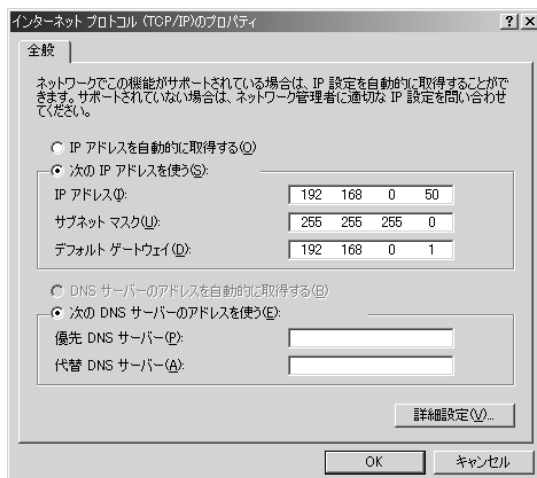
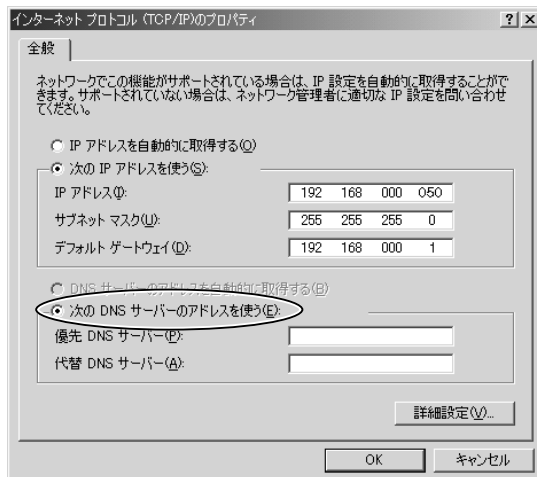
4 プロパティ をクリックする

5 **「インターネットプロトコル（TCP/IP）」**を選び、プロパティ をクリックする

6 **「次の IP アドレスを使う」**を選ぶ

その他

7 各パソコンのIPアドレス（例：192.168.0.50）とサブネットマスクを適切な入力欄に入力し、**192.168.0.1**（MN7500の標準IPアドレス）を**「デフォルトゲートウェイ」**の入力欄に入力する

サブネットマスクは通常255.255.255.0と入力します。MN7500のWeb設定画面にアクセスする場合は、MN7500のサブネットマスクの値と同じ値をサブネットマスクの入力欄に入力してください。

8 **「次のDNSサーバーのアドレスを使う」**をクリックする

9 DNSサーバーのアドレスを入力欄に入力し、［OK］をクリックする

10 ［OK］をクリックする

11 ［閉じる］をクリックし、パソコンを再起動する

Windows NT 4.0 の場合

1 パソコンの電源を入れる

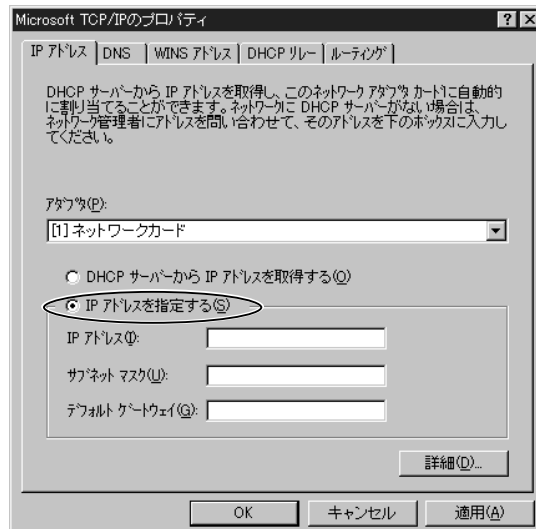
2 **[スタート]** ボタンをクリックし、**設定**を選び、**コントロールパネル**をクリックする

3 **「ネットワーク」**アイコンをダブルクリックする

4 **プロトコル**タブをクリックし、**「TCP/IP プロトコル」**を選び、 **プロパティ** をクリックする

TCP/IP のプロパティダイアログボックスを表示します。

5 **TCP/IP のプロパティ**ダイアログボックスで、**IP アドレス**タブをクリックする

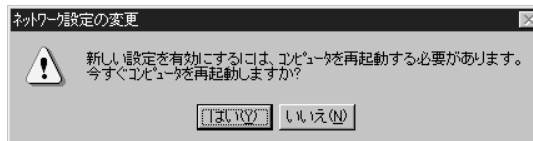
6 **「IP アドレスを指定する」**を選ぶ

7 各パソコンのIPアドレス（例：192.168.0.50）とサブネットマスクを適切な入力欄に入力し、**192.168.0.1**（MN7500の標準IPアドレス）を**「デフォルトゲートウェイ」**の入力欄に入力する

サブネットマスクは通常255.255.255.0と入力します。MN7500のWeb設定画面にアクセスする場合は、MN7500のサブネットマスクの値と同じ値をサブネットマスクの入力欄に入力してください。

8 **DNS**タブをクリックする

9 追加 をクリックし、**「DNSサーバ：」**入力欄に入力し、追加 をクリックする

10 OK をクリックする

システム設定の変更ダイアログボックスを表示します。

11 はい をクリックし、パソコンを再起動する

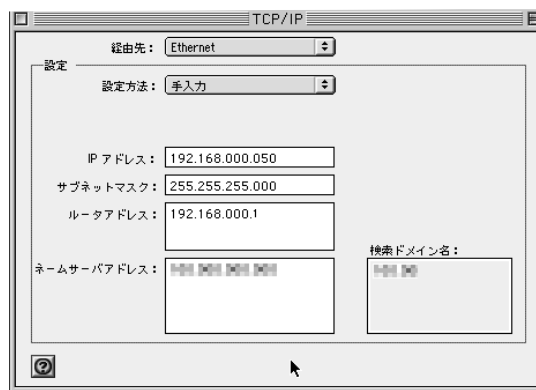
Mac OS 7.5.3 ～ 9.1 の場合

次の手順は、Mac OS 9.1 を使った場合です。Mac OS のバージョンによっては、若干操作方法が異なる場合があります。

1 パソコンの電源を入れる

2 アップルメニューから**コントロールパネル**を選ぶ

3 **コントロールパネル**メニューから **TCP/IP** を選ぶ

TCP/IP ダイアログボックスを表示します。

4 **経由先**ポップアップメニューから **Ethernet** を選ぶ

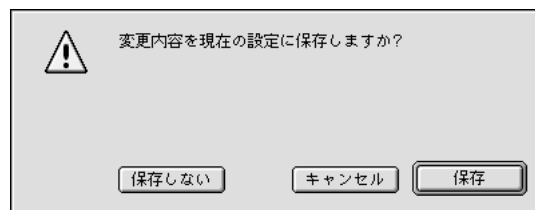
5 **設定方法** ポップアップメニューから **手入力** を選ぶ

6 パソコンの適切な入力欄に IP アドレス、サブネットマスク、ルータアドレス、ネームサーバアドレスを入力する

- サブネットマスクは通常 **255.255.255.0** と入力します。MN7500 の Web 設定画面にアクセスする場合は、MN7500 のサブネットマスクの値と同じ値をサブネットマスクの入力欄に入力してください。
- ルータアドレスの入力欄に、**192.168.0.1**（MN7500 の標準 IP アドレス）を入力してください。
- MN7500 の標準 IP アドレスを変更する場合は、各パソコンのルータアドレスの入力欄のアドレスも変更しなければなりません。

その他

7 クローズボタンをクリックする

右のダイアログボックスを表示します。

8 保存 をクリックする

9 パソコンを再起動する

Mac OS X の場合

1 アップルメニューから**システム環境設定...**を選ぶ

システム環境設定画面が表示されます。

2 **「ネットワーク」**アイコンをクリックする

3 **設定**ポップアップメニューから**内蔵 Ethernet** を選ぶ

4 下の**設定**ポップアップメニューから**手入力**を選ぶ

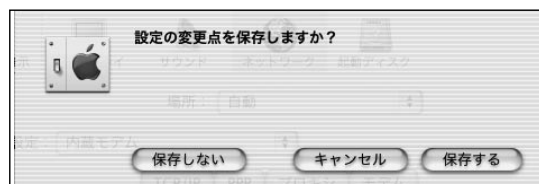
5 パソコンの適切な入力欄にIPアドレス、サブネットマスク、ルータアドレス、ネームサーバアドレスを入力する

- サブネットマスクは通常 **255.255.255.0** と入力します。MN7500のWeb設定画面にアクセスする場合は、MN7500のサブネットマスクの値と同じ値をサブネットマスクの入力欄に入力してください。
- ルータアドレスの入力欄に、**192.168.0.1**（MN7500の標準IPアドレス）を入力してください。
- MN7500の標準IPアドレスを変更する場合は、各パソコンのルータアドレス入力欄のアドレスも変更しなければなりません。

6 クローズボタンをクリックする

右のダイアログボックスを表示します。

7 保存する をクリックする

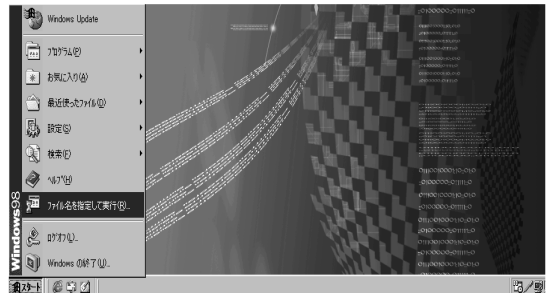
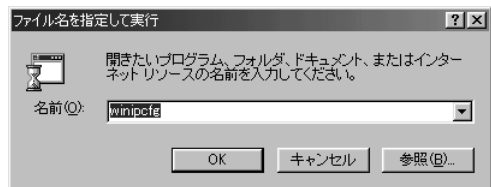
その他

パソコンのIP アドレスや MAC アドレスを確認するには

各パソコンから MN7500 の Web 設定画面にアクセスできない、またはネットワーク上の他のパソコンと通信ができない、などの場合には、各パソコンのIP アドレスの設定に問題がある場合があります。そのような場合は、次の手順にしたがってIP アドレスの設定を確認してください。

Windows 95/98/Me の場合

次の手順は、Windows 98 を使った場合です。

1 パソコンの電源を入れる

2 **［スタート］**メニューから**ファイル名を指定して実行**を選ぶ

3 **名前**欄に **winipcfg** と入力し、 OK をクリックする

4 IP アドレスを確認したいネットワークアダプタを選ぶ

5 詳細 をクリックする

IP アドレス欄を見て、設定されている IP アドレスを確認してください
アダプタアドレス欄を見て、ネットワークカードの MAC アドレスを確認してください。

「IP アドレスを自動的に取得」（☞ 23 ページ）を設定していて、「0.0.0.0」などの値が表示された場合は、IP アドレスが正しく取得できていない可能性があります。そのような時は、次の手順にしたがって、IP アドレスを更新してください。

1 解放 をクリックする

自動取得していた IP アドレスが解放されます。

2 書き換え をクリックする

新しい IP アドレスが割り当てられます

3 OK をクリックする

Windows 2000/NT 4.0 の場合

1 パソコンの電源を入れる

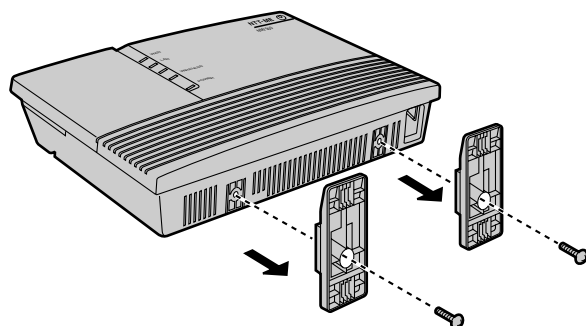
2 **[スタート]** メニューから **プログラム** を選び、**アクセサリ**を選び、**コマンド**を選ぶ

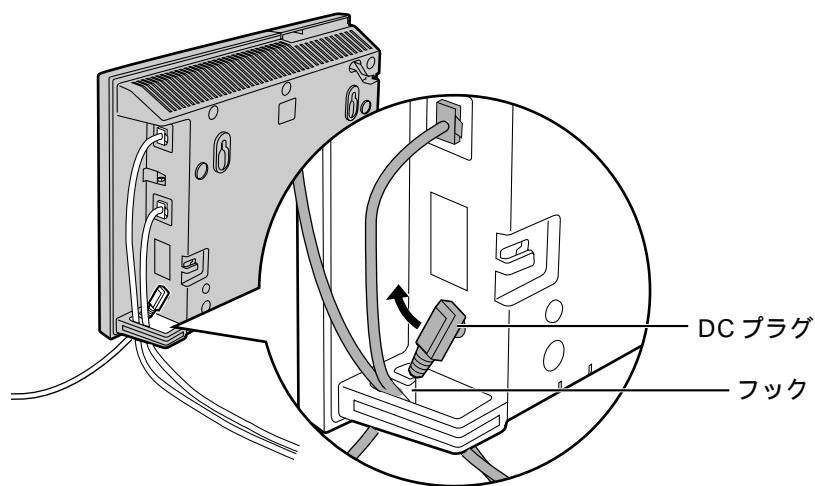
Windows NT 4.0 の場合は、**[スタート]** メニューから**プログラム**を選び、**コマンドプロンプト**を選ぶ

3 **コマンドプロンプト**の後に **ipconfig /all** と入力する

ipconfig コマンドの使いかたは、コマンドプロンプトの後に ipconfig /？と入力すると表示されます。

MN 7500を壁にかける

❶ スタンドを取り外す

スタンドとネジは大切に保管しておいてください。

❷ フックを経由してケーブルを接続する

DC プラグを DC IN ジャックに挿入後、矢印方向に回してフックに引っ掛けてください。

❸ 壁掛け寸法のめやすを使ってネジ（付属品）を壁に取り付け、本機をネジにかけて、静かに下にすべらせる（壁掛け寸法のめやす☞ このページの右側）

16 cm

接続の確認

<table>
<tr><th>問　　題</th><th>原因と対処のしかた</th></tr>
<tr><td>MN7500をADSL/CATVモデムに接続しているが、WANインジケーターが消えている</td><td>●MN7500とADSL/CATVモデムの接続を確認してください。
●MN7500やADSL/CATVモデムの電源が入っているか確認してください。</td></tr>
<tr><td>MN7500をEthernetに接続しているが、LANインジケーターが消えている</td><td>●LANジャックがパソコンやハブの極性とあっているか下の表を参考に確認してください。
<table>
<tr><th>機器</th><th>ケーブルの種類</th><th>HUB/PC切替スイッチ</th></tr>
<tr><td>ハブ
（LANポート）</td><td>ストレートケーブル</td><td>HUB</td></tr>
<tr><td>ハブ
（UPLINKポート）</td><td>ストレートケーブル</td><td>PC</td></tr>
<tr><td>パソコン</td><td>ストレートケーブル</td><td>PC</td></tr>
</table>
●MN7500とパソコン等の接続を確認してください。
●MN7500やパソコン等の電源が入っているか確認してください。
●Ethernetアダプターとドライバーがパソコンにインストールされているか確認してください。</td></tr>
<tr><td>MN7500を無線ネットワークに接続しているが、WIRELESSインジケーターが消えている</td><td>●MN7500の電源が入っているか確認してください。
●無線LANカード（MN SS-LAN CARD11 HQ）がMN7500に装着されているか確認してください。</td></tr>
</table>

MN7500 の Web 設定画面の表示について

問　　題	原因と対処のしかた
ユーザー名・ID とパスワードのダイアログボックスが表示されない	●ホームネットワークの使用状態により、ダイアログボックスがすぐに表示されない場合があります。しばらくお待ちください。 ●MN7500 の LAN インジケーターが緑色に点灯しているか、確認してください。または、ハブや Ethernet カードのインジケーターが点灯しているか、確認してください。インジケーターが消えていたら、ホームネットワークの接続を確認してください。 ●パソコン、MN7500、ホームネットワーク上の機器の電源を適切な順番で入れたか確認してください。詳細は、21 ページの「電源を入れる」を参照してください。 ●MN7500 からホームネットワーク内のパソコンに IP アドレスが割り当てられているか確認してください（☞ 98 ページ)。割り当てられていない場合は、パソコンが「IP アドレスを自動的に取得」（Windows パソコンの場合）または「DHCP サーバを参照」（Macintosh の場合）と設定されていることを確認のうえ、再起動してください。 ●MN7500 の IP アドレスを変更したときは（☞ 68 ページ)、WWW ブラウザのアドレスバーに MN7500 の IP アドレスを入力してください。 ●MN7500 の Web 設定画面にアクセスするには、 WWW ブラウザの設定が必要になる場合があります。81 ページを参照のうえ、設定を確認してください。
パスワードを入力したが MN7500 の Web 設定画面が表示しない	●ユーザー名・ID 入力欄に admin を再度入力してください。 パスワード入力欄には何も入力しないでください。
「無線設定」が表示されない	●「無線設定」は、無線 LAN カード (MN SS-LAN CARD11 HQ)が MN7500 の無線 LAN カードスロットに装着されていないと表示されません。

インターネット WWW サイトの表示について

問　題	原因と対処のしかた
インターネットの WWW(World Wide Web) サイトが表示されない	●WWW サイトのアドレスが WWW ブラウザのアド レスバーに正しく入力されているか、確認してください。 ●ADSL/CATV モデム、MN7500 とホームネットワークの接続を確認してください。 ●Windows パソコンの場合は、Ping コマンドを使って、パソコンと MN7500 との接続を確認してください。 ●プロバイダから受け取ったインターネットの接続に関する情報を確認してください。設定値を入力する必要があれば、「インターネット接続の設定をする」（☞ 34 ページ）を参照し、MN7500 を設定してください。 ●MN7500 のステータス画面（☞ 78 ページ）を確認してください。ステータス画面を見ると、MN7500 にプロバイダから正しく IP アドレスが割り当てられているかがわかります。もし、割り当てられていなかったら、基本設定画面で設定し直してください。 ●プロバイダから指示されている場合は、プロキシサーバーの設定をしてください。 ●PPPoE 接続でインターネットに接続している時に MN7500 を再起動したり電源を切ると、インターネットに接続するのに 5 ～ 20 分かかる場合があります。しばらくお待ちください。また、再起動したり電源を切る前は必ず PPPoE 接続を切断してください。（☞ 77 ページ） ●プロバイダから提供されている IP アドレスがプライベート IP アドレスの可能性があります。フィルタリング設定でエントリ番号の 53 番～ 58 番を削除してください。（☞ 65 ページ）

その他

問　題	原因と対処のしかた
「IP アドレス XXX.XXX.XXX.XXX は、ハードウェアのアドレスが XX:XX:XX:XX:XX:XX に設定してあるシステムと競合していることが、検出されました。」または「ネットワーク上の別のシステムと競合する IP アドレスを検出しました。ローカルインターフェイスは無効です。詳細については、システムイベントログを参照してください。この問題を解決するには、ネットワーク管理者に相談してください。」と表示される	●MN7500 とすべてのパソコンの電源を切ってください。その後、MN7500 の電源を入れ、パソコンの電源を入れてください。 ●家庭内の全てのパソコンが「IP アドレスを自動的に取得」（Windows パソコンの場合）または「DHCP サーバを参照」（Macintosh の場合）に設定されていることを確認してください。MN7500 の DHCP サーバ機能をお使いください。 ●MN7500 の DHCP サーバ機能が働いている際に使うアドレスの値と、ネットワーク内にある特定の機器のアドレスの値が同じでないか、確認してください。
MN7500 の設定を変更した後、「ホストコンピューターが見つかりません」と表示される	●パソコンを再起動した後、再度 MN7500 の Web 設定画面にアクセスしてください。
MN7500 のホームネットワーク内での IP アドレスを忘れてしまった	●「ゲートウェイ」（Windows パソコンの場合）（☞ 23、26、28 ページ）または「ルータアドレス」（Macintosh の場合）（☞ 30 ページ）のアドレスを確認してください。もし、値が表示されたら、それが MN7500 のホームネットワーク側の IP アドレスになります。
MN7500 の Web 設定画面にアクセスするのにパスワードを忘れてしまった	●CLEAR SETTING ボタンを押して、MN7500 の初期化をおこなってください（☞ 80 ページ）。MN7500 の設定内容が工場出荷時の状態に戻ります。その後、ホームネットワーク内のパソコンを再起動し、MN7500 を再度設定し直してください。
Microsoft® NetMeeting® conferencing software が動かない	●MN7500 は、Microsoft NetMeeting をサポートしていません。
MN7500Web 設定画面で 再起動 をクリックしたが、ホームページが表示されない	●**[再起動]** の Web 設定画面で IP アドレス（例： http://192.168.0.1）をクリックしてください。

困った時

お問い合わせ先

■ メンテナンスサービスについて

- 本製品に含まれるソフトウェアが保存されている媒体に欠陥があった場合、お買い上げの販売代理店または小売店に返却してください。無償にて新品と交換いたします。なお、欠陥品送付にともなう送料は、送り主負担とさせていただきます。
- 本製品に含まれるハードウェアが購入後 1 年間に通常のご使用において故障した場合、これを保証します。故障品に保証書を添えて、お買い上げの販売代理店または小売店に返却してください。無償にて修理いたします。なお、修理品送付にともなう送料は、送り主負担とさせていただきます。
- 保証期間でも次のような場合には、有償修理になります。

（1）保証書のご提示がない場合
（2）保証書に機器の製造番号、ご購入日、販売店名の記入がない場合、または字句を書き替えられた場合
（3）接続しているほかの機器に起因して生じた故障、または不当な修理や改造、調整をされた場合
（4）使用上の誤り、または故意・他意に関わらず、ほかの要因による損傷および故障の場合
（5）火災、地震、風水害、落雷、そのほかの天災地変、公害や異常電圧による損傷および故障の場合
（6）購入後の輸送、移動時の落下など、お取り扱いが不適当なため生じた損傷および故障の場合
（7）購入後の取り付け場所の移動、落下などにより生じた損傷および故障の場合

■ お問い合わせ先

本製品について技術的なご質問、または製品のアップグレードに関するご質問は、お買い上げの販売代理店、小売店、または技術サポートセンターまでお問い合わせください。

技術サポートセンター
Tel. 0570-055128
Tel. 03-5675-7956（携帯電話・PHS 用）
Fax. 0570-056128
※祝祭日を除く、月〜金曜日 9:30 〜 17:30 の間、受け付けております。

■ ホームページのご案内

株式会社エヌ・ティ・ティ エムイーのホームページで、製品のサポート情報、最新のファームウェア、アプリケーションなどを提供していますので、ご活用ください。

MN7500 ホームページ
- **株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー「MN Information」：**
  http://www.ntt-me.co.jp/mn

MN7500　お問い合わせ用紙

トラブルなどが発生した場合は、このページをコピーして必要事項をご記入の上、106 ページの技術サポートセンターまで FAX してください。

※電子メールによるお問い合わせは受け付けておりません。ご了承ください。

ふりがな	電話番号
氏名	FAX 番号
連絡先 〒	
製品お買い上げ日　　年　月　日	ファームウェアバージョン　Ver.
製造番号 （※本体裏面に記載されています。）	
（1）ご契約のサービスは何ですか。	
[　ADSL・CATV　]	
（2）トラブルが発生したのはどのポートですか。	
[　LAN ポート関連・無線 LAN カード関連・ WAN ポート関連・その他（　　　　　）]	
（3）本製品に接続してご使用のパソコンについて教えてください。	
使用台数　[　　　台]	
メーカ名　[　　　　]	
機種名　[　　　　]	
OS　[　DOS・Windows (95 / 98 / Me / NT / 2000)　・　MacOS（　　　）]	
（4）通信を行っている場合、接続相手先について教えてください。	
接続先　[　プロバイダ　（名称：　　　　）　・　その他（　　　　）]	
（5）発生している症状を詳しく教えてください。	

※エラーが出ている場合はエラー番号、メッセージも記入してください。

仕様

【本体】

インタフェース	インターネット側： 10 Base-T ジャック（RJ-45 タイプ） ホーム側： 10 Base-T ジャック（RJ-45 タイプ） 無線 LAN カード用スロット （MN SS-LAN CARD11 HQ 専用）
インジケーター	WAN： インターネットとの通信状態を表示 LAN： ホーム側ネットワークの通信状態を表示 WIRELESS： 無線 LAN カードの装着状態を表示 POWER： 電源の入／切を表示
環　境	使用温度： 5 ℃～ 40 ℃ 保管温度： 0 ℃～ 50 ℃ 湿度： 45 %～ 85 %
外形寸法 （幅 × 奥行き × 高さ）	271(W) × 84(D) × 205(H) mm
質　量	約 780 g（本体のみ）
電源電圧	DC 12 V（専用 AC アダプター使用）
消費電力	約 AC 11.5 W 以下（MN SS-LAN CARD11 HQ 非装着時） 約 AC 13.0 W 以下（MN SS-LAN CARD11 HQ 装着時）

【AC アダプター】

電源電圧	AC 100 V　50/60 Hz
定格出力	DC 12 V　1A
消費電力	約 10 W 以下 （AC アダプターのみ電源コンセントに差し込んだとき）

MN7500の標準設定一覧

基本設定

・インターネット接続方法 各設定項目	DHCP接続 設定されていません

アドレス変換

・アドレス変換	使用する

オプション設定

・IPアドレス（ホーム側）設定 IPアドレス ネットマスク	 192.168.0.1 255.255.255.0
・DHCP設定 DHCPサーバ 利用可能なアドレス範囲	 使用する 192.168.0.2 ― 192.168.0.33
・PPPoE設定 接続形態 不使用時の切断	 常時接続 切断する（30分後）
・DNSリレー設定	使用する
・MTUサイズ	MTU 1500バイト
・RIP設定 ホーム側 インターネット側	 送信する 送信しない

ネットワークパスワード

・ユーザー名	admin
・パスワード	設定されていません

フィルタリング設定

No	タイプ	方向	送信元		宛先		プロトコル	ログ出力
			IP アドレス	ポート	IP アドレス	ポート		
1	禁止	W->L	*	*	MN7500	80	TCP	する
53	禁止	W->L	10.0.0.0-10.255.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
54	禁止	W->L	172.16.0.0-172.31.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
55	禁止	W->L	192.168.0.0-192.168.255.255	*	*	*	TCP&UDP	する
56	禁止	L->W	*	*	10.0.0.0-10.255.255.255	*	TCP&UDP	する
57	禁止	L->W	*	*	172.16.0.0-172.31.255.255	*	TCP&UDP	する
58	禁止	L->W	*	*	192.168.0.0-192.168.255.255	*	TCP&UDP	する
59	禁止	W->L	*	*	MN7500	*	TCPEST	する
60	禁止	W->L	*	*	*	*	TCPEST	する
61	禁止	W->L	*	*	*	137-139	TCP&UDP	する
62	禁止	W->L	*	137-139	*	*	TCP&UDP	する
63	禁止	L->W	*	*	*	137-139	TCP&UDP	する
64	禁止	L->W	*	137-139	*	*	TCP&UDP	する

数字

10Base-T
ネットワーク規格の一種で、より対線（Twisted Pair Cable）を使用したものです。

英字

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)
TCP/IP ネットワークにおいて、各クライアントに動的に IP アドレスを割り当てるためのプロトコルのことです。DHCP サーバは、IP アドレス、ゲートウェイアドレス、ドメイン名、サブネットマスクなどの情報を管理し、クライアントに割りあてることができます。

DNS (Domain Name System)
ネットワーク環境で実際使用される IP アドレスは、憶えにくく実用的ではありません。その解決法としてパソコンにわかりやすい名前（ドメイン名）を付けて、IP アドレスに変換して通信がおこなわれます。
ドメイン名では、例えば " ntt-me.co.jp " などがあります。

Ethernet
Xerox 社などによって開発された LAN 通信方式です。

HUB
10Base-T ネットワークで用いられる集線装置です。
8 ポートや 4 ポートなど、ポート数は様々です。

IP アドレス
インターネット上のすべてのネットワークインタフェースは、IP アドレスによって識別されます。
そのため TCP/IP を使用して通信を行うネットワークインタフェースには、固有の IP アドレスが必要です。

IP マスカレード
NAT による IP アドレスの変換だけでなく、TCP/UDP のポート番号も識別することで、1 つのグローバル IP アドレスを利用して、複数のパソコンが外部と通信できるようにする機能です。

LAN (Local Area Network)
フロアの中や同一建物内、キャンパスの中など、比較的狭い地域でのコンピューターネットワークのことです。

MAC (Media Access Control) アドレス
ネットワークカードに固有の物理アドレスのコードです。各ネットワークカード毎に違うコードが割り当てられています。

PPP (Point to Point Protocol)
公衆回線などを経由して 2 台のパソコンを接続するために開発されたプロトコルです。

PPPoE
PPP over Ethernet の略で、Ethernet 上でユーザー名、パスワードでの認証機能や圧縮機能をサポートするだけでなく複数のプロトコルを同時にサポートできます。ただし、PPPoE をご利用いただくためには、別途 PPPoE 対応のルーターか PPPoE クライアントソフトが必要になります。

TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol)

米国防総省の資金援助によるネットワークプロジェクトで開発されたネットワークプロトコルです。インターネットの標準プロトコルであり、現在最も普及しているプロトコルです。ネットワーク層プロトコルはIPで、トランスポート層プロトコルはTCP（Transmission Control Protocol）とUDP（User Datagram）の2つです。
FTP、SMTPなどのアプリケーションは、TCP/IPが利用されています。

URL (Uniform Resource Locator)

インターネット上のリソースを指定する方式です。
具体的例としては、インターネット上のWebサイトにアクセスする際に使用する「http://www.ntt-me.co.jp/」のことです。

WWWサーバ (World Wide Web)

画像、動画、音声などをハイパーテキスト形式で蓄積し、情報を提供するファイルサーバです。
ハイパーテキスト型情報では、情報内のテキスト文字列（ワード）が別の情報であるテキストやファイル、画像、動画、音声などにリンクしているので、それぞれのワードをマウスでクリックすると、より詳しいあるいはそれに関する別の情報を抽出することができます。

WWWブラウザ (World Wide Web)

WWWサーバにアクセスするためのクライアント・プログラムです。
Microsoft社のInternet ExplorerやNetscape Communications社の Netscape Navigatorなどがあります。

あ

インターネット

地球規模でマルチメディア通信ができるネットワークです。
インターネットサービスプロバイダがインターネットへの接続サービスを行っています。

エラー訂正

コンピューターによる情報処理において、自動的にデータの誤りを訂正するしくみ、または訂正することをいいます。

か

クロスケーブル

Ethernetハブ等を介さず直接パソコン同士を一対一で接続することができるように作られたEthernetケーブルの種類です。

さ

サブネットマスク

IPアドレスは、ネットワークIDとホストIDによって構成されます。そのネットワークIDとホストIDとを区別するためにネットワークIDの長さを判定する役目をします。これにより送信先ホストのIPアドレスが、ローカルネットワークとリモートネットワークのいずれにあるかを判断します。

ストレートケーブル 通常は、パソコンと Ethernet ハブを接続するための 10Base-T ケーブルの種類です。

た

ダウンロード 遠隔地にある装置側からネットワークを使用しデータを自分側に持ってきて保存する作業をいいます。

デフォルトゲートウェイ デフォルトゲートウェイは、ルーティング情報を交換しネットワークを管理しているコンピューター（ルータなど）でネットワークの IP パケットの道先案内をします。
ローカルネットワーク以外への通信は、デフォルトゲートウェイを介して行われます。

な

ネットマスク 「サブネットマスク」を参照

ネットワーク 情報交換のためにコンピューターなどの各種装置、機器などがケーブルや公衆回線、無線などを介して接続されていることです。

ノード ネットワークに接続されているコンピュータやハブなどの機器のことです。

は

パスワード ファイルやネットワークを利用する際に鍵の役目をする合言葉（文字や数字）です。
ネットワークのセキュリティ上、ユーザー識別のためにあらかじめ言葉を登録します。登録されている言葉と一致しない場合は、ファイルやネットワークを利用することはできません。

ファームウェア 本機を動作させるプログラムです。本機ではフラッシュメモリの中に格納されています。

プライベート IP アドレスとサブネットマスクの設定値について インターネットでは絶対に使われないネットワーク ID を「プライベート IP アドレス」と呼び、下の表のようにクラス A, クラス B, クラス C の 3 段階に分かれています。ホームネットワークの規模に応じてクラスを選び（例えば、20 台位までのパソコンが接続されたネットワークであればクラス C を選ぶ)、そのクラスの IP アドレスの範囲の中で IP アドレスを設定してください。

クラス	サブネットマスク	プライベート IP アドレス (この範囲のアドレスは組織内で自由に設定できる)
クラス A	255. 0. 0. 0	10 . 0. 0. 1～10 .255.255.254
クラス B	255.255. 0. 0	172. 16. 0. 1～172.031.255.254
クラス C	255.255.255. 0	192.168. 0. 1～192.168.255.254

ブリッジ	ネットワーク内で送信されるパケットをデータリンク層で中継する機器のことをいいます。ブリッジはネットワーク内の各ケーブル上のフレームを調べて、送信元アドレスと送信先アドレスが同じケーブル上にあれば何もせず、異なるケーブル上にある場合はフレームの中継や転送を行ないます。
プロキシサーバー	プロキシサーバーは、コンピューターとインターネット間のセキュリティを強化したり、キャッシングによって不必要なトラフィックを減らすことで、ネットワーク間のパフォーマンスを向上させるために使用されるサーバーです。